

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

プログラム名	センター研修と教員免許状更新講習との協調による ミドルリーダー育成研修プログラムの開発
プログラムの 特徴	<p>センターでの研修内容の充実を図り、教員が一人ひとりが主体的に学校組織を下支えするための能力と資質を育成することを目的に、センター研修と教員免許状更新講習の内容の整合をはかり、より効果的・効率的な研修体系の開発を試みた。</p> <p>ポートフォリオ等を活用することで、教員自らが組織の一員として、同時にミドルリーダーとして、校内で中心的役割を果たし、学校を支えているという自覚を持ち、自らのキャリアアップのための研修をどのように図ったらよいかを考えるしくみを提案した。</p> <p>ミドルリーダー養成研修は、初任者から25年間一貫研修の一部ととらえ、初任からミドルリーダーにつなぐ研修のあり方の改善について提案した。</p>

平成28年3月


機関名 信州大学 連携先 長野市教育委員会

プログラムの全体概要

ミドルリーダー研修のポイント

ミドルリーダー

研修や研究の意義を理解し、自分なりの教育理念をもち、絶えず学ぼうとする教師



学校組織の一員として、積極的に学校運営に参画し、実践を通して貢献する教師

研修とは

- 確固たる自己をつくる研修
- 視野を広げる研修
- 自己に向き合う研修

- ✓ ライフヒストリーの作成
- ✓ 研修履歴の作成
- ✓ 自己の課題は？ (自校の課題は)
- ✓ 先輩に学び 後輩を育てるとは？

教育センターでの研修

集合研修



校内でのOJT研修



自己を知る手立てとして

ライフヒストリー ※満足度…3段階で

学年等	ヒストリー・エピソード	満足度
1 専科	ICTについて詳しい先生がいて、いろいろと学べた。	2
5 小4	放課後、子どもたちとたくさん遊ぶ。	3
7 小3	社会科の研究授業を行う。まだ何もできない自分に気づく。	2
9 小2	横田毅一先生に授業を公開。生活・総合や教科授業のキャリアは自分でつくることが学ぶ。	3
15 小4	市指定研究授業を行う。社会科にかかわる先生たちとたくさん話ができ、大変勉強になる。全校研究主任となる。	3
17 小6	長野市教育大綱の提案者(社会)となり、提案を公開する。	3

長野市の教員の資質能力の指標を確認

	第Ⅲ期(向上期1) 10年～15年 実践力を磨き専門的な知識や技能を高めグループのリーダーとして推進力を発揮する。	第Ⅳ期(向上期2) 16年～20年 専門的な知識や技能を高めグループのリーダーとして推進力を発揮する。	第Ⅴ期(充実期) 21年目以上～ 豊富な経験を生かした広い視野で組織的な運営力を高める。
授業設計	児童生徒の実態に応じた個別計画の作成や教材開発に取り組むことができる。	児童生徒の実態を的確に把握し、指導計画を修正したり学習形態や教材の創製工夫をしたができる。	教材におお自校の教育課題を分析し、具体的な取組を提案、推進することができる。
授業実践	年間指導計画・位置づけをわける教材の価値を捉え、教材研究を行うことができる。	授業を公開し、校内の職員に能力向上の視点をもちて働きかけ、若手教員を育成することができる。	実践に即した創製工夫した教材を開発することができる。
教科経営	自己課題を顕に授業を公開し、これまでの授業実践を振り返るとともに、より多くの授業を参画する中で授業力を高めることができる。	児童生徒の発達の軌跡を把握し、求められる	学校目標を踏まえ、具体的な教育活動を示した年間指導計画を作成することができる。
授業分析			
評価			
教職専門性	報告や連絡を大切に、様々な問題に対する組織的対応の必要性を理解することができる。	特色ある教育活動を展開することができる。 教育の最新事情を把握し、自己啓発が求められることを見据えて、学校を活性化し、発展的発展ができる。	教職員間の協働を促し、教職員間の信頼関係を構築し、協働による学校運営が実現できる。 少保小中高を見据えた校務の円滑な業務を担い、教育を推進することができる。
使命感・責任感	自校の課題を受け止め、考えられた任務で課題解決に向けてリーダーシップを発揮することができる。 「いつの時代も求められる資質能力」と「今期に求められる資質能力」を把握し、教職に携わる者としての自覚をもち、研修への意欲を抱くことができる。		
コミュニケーション力	児童生徒の言動を注視し、言動の裏にある思いや背景、願いを感じ取りつつ、円滑な人間関係を築くとともに、一人ひとりの思いや願いを位置づけられた学級づくりができる。 上司や同僚と積極的に関わり、互いの願いや目的を理解して、学年・教科間・行事・学校等の運営にあたるることができる。 保護者や地域の方々と積極的に関わり、開かれた学級づくり、学級づくり、学校づくりに繋がることことができる。		
広い視野	教育を取り巻く社会的背景の把握に努め、広い視野からものごとを見たり考えたりすることができる。 広い視野から長野市の教育目標や学区内の取組や特色を理解し、順守に務めることができる。		
法令遵守	法令を遵守し、安全で安心な学校づくりに向け、誠実かつ公正に職務を遂行することができる。 職種の法規について学び理解することができる。		

ポートフォリオシステムを活用して



講座番号	講座名	副題	対象者	受講種別	概要	期日
2811	キャリアアップ研修①		別記	必修	○自己実践を振り返り、教員としてのあり方や今後のキャリアアップについて考える ○ストラスマネジメントについて学ぶ (S17.4.2～S18.4.1生まれで、10年研修了者又は免許更新講習修了承認期限内に10年研修了見込の者)	10月27日(木)
2812	キャリアアップ研修②		別記	必修	○自己実践を振り返り、教員としてのあり方や今後のキャリアアップについて考える ○学校マネジメントについて学ぶ ○学校づくりのためのリーダーシップ ○学校開や地域との連携の進め方	10月31日(月)
3101	学校組織マネジメント		小中教員	選択必修	○中堅リーダーとなっていくための資質能力 ○最新の教育事情と学校組織マネジメント ○学校づくりのためのリーダーシップ ○学校開や地域との連携の進め方	5月26日(木)
3102	学年組織マネジメント		小中教員	選択必修	○学年組織マネジメントの基本 ○ランドデザインや戦略マップ等の演習 ○学年運営にかかわる情報交換	7月8日(金)
3111	新職員のためのアンガーマネジメント心の健康づくり		全教職員	希望	○アンガーマネジメントのポイント ○負の感情をコントロールするスキル	9月6日(火)
3321	災害から身を守る防災教育-防災・危機管理-		全教職員	必修	○防災教育に必要な学び ○活断層地盤災害にどう備えるか ○ハザードマップの活用 ○子どもと作る防災マップ	6月24日(金)

研修内容を決めて、自己を磨き高める

●●年度 研修講座詳細(簡票) 長野市教育センター

講座番号	3101	講座名	学校組織マネジメント	開催日	5月26日(木)	対象者	小中教員	受講種別	選択必修	企画者	担当
会場	市教員会館	開始時刻	13:30	終了時刻	16:30	担当	●● △△				
概要	○中堅リーダーとなっていくための資質能力 ○最新の教育事情と学校組織マネジメント ○学校づくりのためのリーダーシップ ○学校開や地域との連携の進め方										
目的	○中堅教員としての資質を磨き、資質を高める。 ○最新の教育事情を把握するとともにマネジメント力を高める。 ○ストラスリーダーとしての職務を担い、全体がリードする資質を磨く。										
学習指導	【学習指導】授業実践・教科指導・授業分析										
管理運営	【管理運営】学校づくりの推進・人材育成・教育課程開発・保護者・地域との連携										
児童生徒理解	【児童生徒理解】児童生徒の発達の軌跡を把握し、求められる										
教職の見識・人間性	【教職の見識・人間性】自己課題・実践力・使命感・責任感 【法令遵守】法令を遵守し、安全で安心な学校づくりに向け、誠実かつ公正に職務を遂行することができる。										
事前準備	自校の中で、自分の役割について考察しておく。										
研修の流れ	○最新の教育事情についての講義(60分) ○組織マネジメントとランドデザイン等についての講義(演習)60分										
留意点	【チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(管申)】										
資料・ワークシート	【組織マネジメント(リーダーシップ)コンプレックス(ランドデザイン)】										
キーワード	職務力・所履 円北教育政策研究部										
講師1	氏名	○ ○ □ □	職名	総務研究官							

[研修を振り返り、キャリアアップへ向けて前進]

I 開発の目的・方法・組織

1. 開発目的

同僚性を発揮した教育活動の充実を図るに当たって、世代交代により、これまで以上にミドルリーダーの育成が急務とされているが、これまでに開発された研修プログラムは、ミドルリーダー養成時期と平行して実施される教員免許状更新講習の内容との関連性を意識したものは少なく、双方のプログラム改善が社会的にも要請されている。

そこで、本開発プログラムでは、これまでに信州大学と長野市教育委員会との連携で開発し実践している教員研修モデルカリキュラム開発プログラムと、平成28年度から変更される教員免許状更新講習との整合性を図り、初任から中堅につなげていく研修のあり方も含めたミドルリーダー育成カリキュラムとデジタル教材を含む研修教材を開発することを目的とした。

2. 開発の方法

長野市教育委員会と信州大学との連携に基づき、共同研究のための研究会を設置し、それぞれミドルリーダー育成研修並びに教員免許状更新講習を担当業務とする委員が参加することで、カリキュラムの開発と講座の実施等を共同で行うとともに、信州大学の持つ教育資源を研修講座等に活用する方策を探った。

具体的には、長野市として実施してきたこれまでの中堅教員研修を見直し、教員一人一人が、自らのライフヒストリーを見直す中で、改めてキャリアアップのための自らのデザイン設計を意識した研修のあり方を見いだす方策の開発を目指した。

同時にこれまでに開発した教育実践ポートフォリオシステムや教育実践情報の共有システムの改良を行い、活用方法の改善を図ることで、教師が自らが自己成長を意識し、研修に励むためのしくみ作りを試みた。

また、授業力向上については、授業研究の方法を見なすための教材を作成し、授業分析に基づく授業改善の研修を試行し、自主研修や校内研修における授業力向上を図ることができるか探った。

3. 開発組織

No	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	信州大学教授	小山 茂喜	研究代表：総括、カリキュラム開発 システム・コンテンツ開発	教育方法
2	信州大学教授	庄司 和史	研究：連携推進、カリキュラム開発	特別支援教育
3	信州大学准教授	荒井英治郎	庶務：連携推進、カリキュラム開発	教育行政学
4	信州大学教授	東原 義訓	研究：連携推進・研修支援	情報教育
5	信州大学准教授	谷塚 光典	研究：連携推進・研修支援 システム・コンテンツ開発	教師教育

6	信州大学講師	田村 徳至	研究：カリキュラム開発	教育方法 教育学 心理学
7	信州大学講師	河野 桃子	研究：カリキュラム開発	
8	信州大学講師	神谷真由美	研究：カリキュラム開発	
9	長野市教育委員会教育長	近藤 守	連携機関代表	
10	長野市教育委員会教育次長	田川 昌彦	所管教育機関との調整	
11	長野市教育委員会学校教育課長	上杉 和也	教育委員会事務局の調整	
12	長野市教育センター所長	栗林 秀夫	研究:カリキュラム開発	
13	長野市教育センター所長補佐	春原 一夫	教育センター関係の庶務・調整	
14	長野市教育センター主任指導主事	玉川 隆雄	研究:カリキュラム開発	
15	長野市教育センター指導主事	中村 努	研究:カリキュラム開発	
16	長野市教育センター指導主事	高木 淳	研究:カリキュラム開発	
17	長野市教育センター指導主事	吉池いわ子	研究:カリキュラム開発	
18	長野市教育センター指導主事	柳澤 勉	研究:カリキュラム開発	
19	長野市教育センター指導主事	石塚 弘登	研究:カリキュラム開発	
20	長野市教育委員会指導主事	勝野 学	研究:カリキュラム開発	
21	長野市教育委員会指導主事	塚田 智紀	事務局学校教育課内の庶務・調整	

II. 開発の実際とその成果

1. 25年間一貫研修の一部と捉えたミドルリーダー研修のあり方について

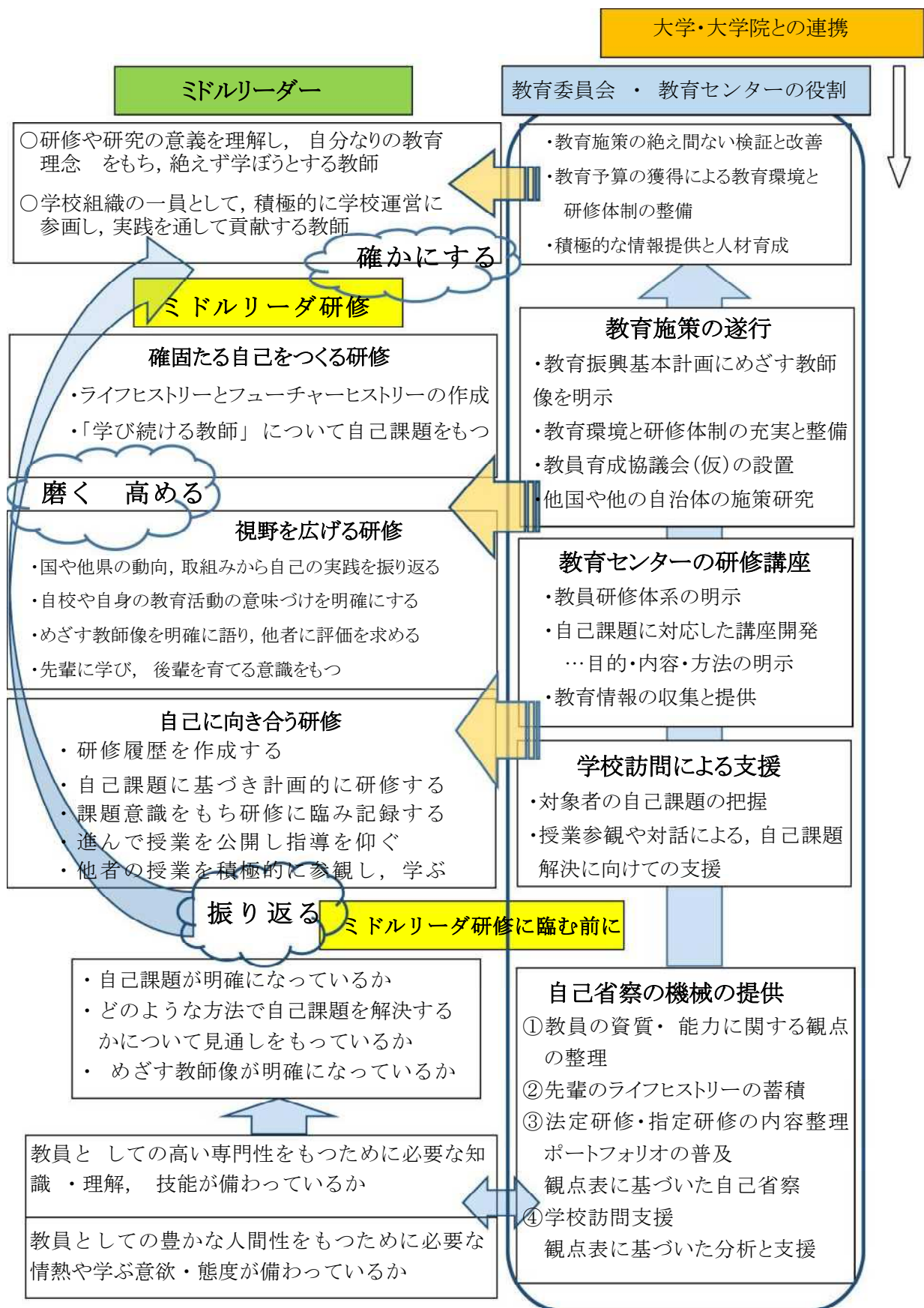
初任者研修・5年経験者研修・10年経験者研修といった節ごとの輪切り体系で実施していた研修のあり方を、切れ目なく教員自らの自己課題に合わせて、ステップアップする研修という意識変革を行うため、研修に当たって、教員自らが自分の現段階での立ち位置を自覚できるように、ライフヒストリーの作成を試みた。

これまで、漠然と「あのときは…」と回顧するくらいでしかなかった自らの教員としての歩みを、改めて振り返ってみると、いくつかの節目が自分の中にあったことに気づき、まず、ミドルリーダーとして、後輩に何を伝えたらよいのかを、認識する機会となった。

さらに、ライフヒストリーを作成することで、自分の伸びてきている部分と、研修等避けてきている部分や「弱み」がある程度浮き上がってくることから、「何に視点を当てて研修をすればよいのか」という自己課題を明確に持つことができたという感想が得られた。

そして、これまで開発を続けてきた「長野市の教員として求められる資質・能力の指標」をおおむね体系化することができ、ポートフォリオやライフヒストリーを見返し、指標と対照させることで、5年経験者研修・10年経験者研修・免許状更新講習等への関わりが自己課題の解決に向けての研修という意識が可能になり、途切れ途切れの研修から、円滑かつ継続性のある研修へと意識化することで、教師自らが継続的にキャリアアップに向けて具体的に設計・実行できるようにした。

① 大学と教育委員会との連携による教員研修の基本的な運用のイメージ



②自己課題を見つけ出すためのミドルリーダーの育成指標(マトリックス表)

キャリア ステージ		第Ⅲ期(向上期1)		第Ⅳ期(向上期2)		第Ⅴ期(充実期)	
		10年～15年 実践力を磨き専門的な知識 や技能の習得を図る。		16年～20年 専門的な知識や技能を高め グループのリーダーとして 推進力を発揮する。		21年目以上～ 豊富な経験を生かし広い視 野で組織的な運営力を高め る。	
資質能力		資質能力の内容		資質能力の内容		資質能力の内容	
学 び 続 け る 教 師	教 育 指 導 専 門 性	学 習 指 導	授業設計	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態に応じた指導計画の作成や教材開発に取り組むことができる。 年間指導計画に位置付けられている教材の価値を捉え、教材研究を行うことができる。 自己課題を基に授業を公開し、これまでの授業実践を振り返るとともに、より多くの授業を参観することができる。 学習評価のあり方を理解し、評価規準を用いて児童生徒の学習状況を把握することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態を的確に把握し、指導計画の修正や、場に応じた学習形態の設定や教材の作成を創意工夫し、授業展開できる。 授業を公開し、校内の職員に授業力向上の視点をもって働きかけ、若手教員を育成することができる。 今日的な教育の動向を把握し、求められる専門性を追究するとともに、それらを校内に広めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科における自校の教育課題を分析し、具体的な取組を提案、推進することができる。 確かな学力の向上を目指し、児童生徒の実態に応じた創意工夫した教材を開発することができる。 学校目標を踏まえ、具体的な教育活動を示した年間指導計画を作成することができる。 授業分析や評価について、学校全体にフィードバックできる。 	
			授業実践	<ul style="list-style-type: none"> 同僚とともに、ICTの活用、情報モラル教育、情報セキュリティ向上に取り組むことができる。 			
			教科経営	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標を理解し、方針に基づいて計画を立て、一貫性のある指導を行うことができる。 報告や連絡を大切にし、様々な問題に対する組織的対応の必要性を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> マネジメント・マインドを形成し、学年経営や教科経営など組織運営に主体的に関わり、特色ある教育活動を実践することができる。 教育の最新事情を把握し、自己啓発が求められていることを理解して、学校を活性化する実践的指導ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育に関する動向等を理解し、学校グランドデザインを作成することができる。 教職員間の連絡調整を図り、教職員や関係機関と協働した取組による学校運営ができる。 幼保小中高を見据えた校種間の円滑な接続を意識した教育を実践することができる。 	
			授業分析	<ul style="list-style-type: none"> 校務を円滑に遂行するために同僚に相談するなど、日常的なコミュニケーションの重要性を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師力向上の視点をもって周囲に働きかけ、互いの教育方法や指導技術を公開し、課題を共有することで、指導力向上を啓発することができる。 学校インターンシップの効果について理解し、教師力を高め合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職と連携して教職員の資質・能力が、より向上するための仕組みを作り、計画的に推進することができる。 学校インターンシップ等を活かして、最新の課題にも協働して取り組む体制を構築することができる。 	
教 育 管 理 ・ 運 営	管 理 ・ 運 営	学校ビジョンの構築	<ul style="list-style-type: none"> 同僚とともに、ICTの活用、情報モラル教育、情報セキュリティ向上に取り組むことができる。 				
		人材育成 (同僚性の構築)	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の教科等の目標を十分に理解し、系 	<ul style="list-style-type: none"> 今日的な教育の動向や学習指導要領の改訂などを 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成と改善について中核となって自校 		
		教育課程					

			編成	統的で、計画的な指導ができる。 ・専門性や技術を高めるために積極的に教育研究ができる。	的確に把握し、教育課程の実践研究を推進することができる。 ・教材開発や指導力向上のための研究を行い、校内に広めることができる。	の学力を向上に取り組むことができる。 ・研究成果を活かした提案性のある授業を公開するなどして、全体の授業力向上を推進できる。	
			危機管理	学校安全	・生活安全、交通安全、災害安全について理解し、学校安全計画に基づいて安全指導ができる。 ・火災や自然災害等を想定した避難訓練等を計画し実施できる。 ・校内活動・校外活動等の安全・緊急時の行動計画を立てることができる。 ・交通安全について、状況に応じた指導ができる。	・安全教育に主体的に取り組み、より実証的な学校安全に関する実践ができる。 ・情報収集体制の整備や充実などに、積極的に関わり、科学的な学校安全を推進することができる。 ・自然環境や教育環境の安全に関わる課題について経験を活かして対応することができる。	・学校安全計画の策定と内容を充実させる組織的取り組みの推進ができる。 ・危険等発生時の対処要領を作成し、事件・事故、災害への的確な対応ができる。 ・地域社会、家庭等との連携を図るとともに学校施設の安全確保と危機管理体制を整備することができる。
				健康・学校環境衛生	・保健管理と保健教育について理解し、発達段階に応じた健康教育を推進することができる。 ・日々の生活での疾病やけが、アレルギー等の応急処置ができる。	・生活習慣病や各種の疾病について理解し、実態把握に努め、適切に対応することができる。 ・メンタルヘルスを含む児童・生徒や、職員の健康についての問題や校内の衛生管理への課題意識をもち、的確な対応ができる。	・学校環境衛生等、学校教育活動に必要な健康や安全に関する体制を構築することができる。 ・労働安全衛生管理体制の管理推進ができる。
				学校情報管理	・教育活動全般に関わる情報セキュリティ対策の目的や学校セキュリティポリシーを理解し、安全管理に的確に対応できる。 ・個人情報の保護に留意して、資料の作成や活用ができる。 ・SNSなどの危険性を理解し、自分の情報管理ができる。 ・情報モラルの指導について積極的に推進することができる。	・パソコンの使用規定などを整備し、安全管理を徹底することができる。 ・ネットモラル等に関する最新の技術や情報の収集をして、SNSなどの危険性の理解をして、的確な指導や対策ができる。	・情報機器の有効な活用ができる環境整備を推進すると共に、情報セキュリティの強化を推進することができる。 ・最新のICT技術の動向や実態を把握して、安全管理の重要性の啓発を推進することができる。
				保護者・地域との連携 (資源の活用)	・家庭との連携による基本的な生活習慣の確立や、家庭学習を充実させることができる。 ・発信方法を工夫したり、情報を共有したりすることができる。	・保護者、地域、関係機関等、外部への情報発信を計画的に行うことができる ・幼保・小・中・高の各段階におけるキャリア発達の視点に立った保護者への的確な支援を行うことができる。	・各地域の実情に合わせた活力ある学校づくりについて積極的に推進することができる。 ・特色ある開かれた学校づくりを進め、コミュニティスクールなど地域の状況に応じた連携を深めていくことができる。
		・児童生徒個々の心身の特	・関係機関と連携して、学	・幼保から高校までの成長			

児童生徒理解	学級経営	性や状況，生活環境等を多面的に捉え，個に応じた指導・支援を行うことができる。	年全体の児童生徒理解の上に立った指導を行うことができる。	を見通したキャリア発達の視点に立った学級，学年づくりを行うことができる。
	地域・家庭理解	・保護者，地域，関係機関等，外部への情報発信を計画的に行い，その効果を確かめたり，発信方法を工夫したりすることができる。	・幼保・小・中・高の各段階におけるキャリア発達の視点に立った保護者支援を適切に行うことができる。	
	特別支援教育	・特別支援教育における基本理念や現状について最新の情報を収集し，理解しようと努めることができる。	・地域の関係機関の役割を理解し，連携しながら，学校・家庭・地域での支援を効果的につなげることができる。	・共生社会の実現に向け，深い専門知識やコーディネート力をもとに，どのような場においても，質の高い教育的支援を提供できる。
	人権教育	・いじめや不登校の現状について常に情報を収集・理解し，予防や解決に向けた適切な指導・支援ができる。		
教職の見識・人間性	自己研鑽・探究力	・自己の生き方を見つめ，自らの人間性を高めようと，今までのものの見方や考え方を見返すために「人，もの，こと」との出会いを積極的に求めることができる。 ・社会の変化と，それに伴う子供たちの変化の理解に努め，一人ひとりの良さや違いに目を向けた児童生徒への対応を工夫することができる。		
	使命感・責任感	・教職員の使命や任務を想起して，自身の現状と課題を把握し，自己啓発することができる。 ・自校の諸課題を受け止め，与えられた校務で課題解決に向けてリーダーシップを発揮することができる。 ・「いつの時代も求められる資質能力」と「今特に求められる資質能力」を理解し，教職に携わる者としての自覚をもち，意欲を持って研修を行うことができる。		
	コミュニケーション力	・児童生徒の言動を注視し，言動の奥にある思いや背景，願いを感じ取りつつ，円滑な人間関係を結ぶとともに，一人ひとりの思いや，願いを位置づけた学級づくりができる。 ・上司や同僚と積極的に関わり，互いの願いや目的を理解して，学年・教科会・行事・学校等の運営にあたることことができる。		
	連携力	・保護者や地域の方々と積極的に関わり，開かれた学級づくり，学年づくり，学校づくりに努めることができる。		
	広い視野	・教育を取り巻く社会情勢の把握に努め，広い視野からものごとを見たり考えたりすることができる。 ・広い視野から長野市の教育目標や通学区内の風土や特性を理解し，郷土に誇りをもつことができる。		
法令遵守	・法令を遵守し，安全で安心な学校づくりに向けて，誠実かつ公正に職務を遂行することができる。 ・最新の法規について学び理解することができる。			

③ミドルリーダー研修としての指定研修について

前述の育成指標に基づき，教員各自が自己課題に基づいて，主体的に研修を受けることが前提であるが，管理運営に関わる知識や技能等，世代に応じて必ず身につけておかなければならない内容については，指定研修として位置づけ，その他の内容については，ポートフォリオ等を活用して，教員各自の必要度の順位に応じて計画的に研修を受けるように研修講座を編成した。

講座の一覧表には、他の講座も「講座名」「目的」と「内容の概要」に加えて、「キーワード」を示すこととした。これまで、目的は示してきたが、多くの教員は「講座名」で研修を決めていることが多いことがアンケート等から明らかになったので、キーワードを加えることで、自己課題と講座とのマッチングしやすくなることをねらった。

このことによって、新たに講座ごとの個票(解説書)も作成することが可能になった。

[指定研修一覧]

講座名	時数	目的	概要	キーワード	研修の流れ	講師
キャリアアップ研修①	180分	○主にストレスマネジメントについて学び、中堅教員に求められる力を高めるため。	○自己実践を振り返り、教員としてのあり方や今後のキャリアアップについて考える ○ストレスマネジメントについて学ぶ	私の強みと弱み ストレスマネジメント 免許更新講習	○キャリアのふり振り返りと今後の目標(演習) ○ストレスマネジメントについて(講義)	大学教員
キャリアアップ研修②	180分	○主に学校マネジメントについて学び、中堅教員に求められる力を高めるため。	○自己実践を振り返り、教員としてのあり方や今後のキャリアアップについて考える ○学校マネジメントについて学ぶ	学び続ける教員像 時間管理 学校安全 学校の組織風土 免許更新講習	○学校組織と中堅教員の役割(講義) ○中堅教員の役割(演習)	大学教員
学校組織マネジメント	140分	○中堅教員としての自覚を持ち、資質を高める。 ○最新の教育事情を理解するとともにマネジメント力を高める。 ○ミドルリーダーとしての職務を担い、全体をリードする資質を磨く。	○中堅リーダーとなっていくための資質能力 ○最新の教育事情と学校組織マネジメント ○学校づくりのためのリーダーシップ ○学校間や地域との連携の進め方	組織マネジメント リーダーシップ コンプライアンス グランドデザイン	○最新の教育事情 講義(60分) ○組織マネジメントとリーダーシップ 講義と演習(80分)	大学教員
学年組織マネジメント	140分	○ミドルリーダーとしてのビジョンを持って活動する必要性を自覚する。 ○演習等を通して学年経営や教育研究にかかわる方策を身につけ	○学年組織マネジメントの基本 ○リーダーとなるためのリーダーシップマインド ○グランドデザインや戦略マ	組織マネジメント リーダーシップ 学年経営戦略マップ グランドデザイン	○学年組織マネジメント 講義(60分) ○戦略マップの作成 演習(80分)	市教委指導主

		る。 ○マネジメント力を高め、リーダーとしての資質を磨く。	ップ等の演習 ○学年運営にかかわる情報交換			事
教職員のためのアンガーマネジメント -心の健康づくり-	160分	○怒りの感情と上手に付き合うための心理トレーニングであるアンガーマネジメントを通して、怒りを理解し、怒りの感情をマネジメントできる手法等を学ぶ。 ○怒りの感情を整理しながら児童生徒への効果的な指導ができる力を育む。	○アンガーマネジメントのポイント ○負の感情をコントロールするスキル	アンガーマネジメント	○アンガーマネジメント講義(60分) ○感情をコントロールするスキル演習(60分)	カウンセラー
災害から身を守る防災教育 -防災・危機管理-	120分	○自然災害等への危機管理意識を高める。 ○災害に備えた事前対策や具体的な行動について学ぶ。	○防災教育に必要な学び ○活断層地震災害にどう備えるか ○ハザードマップの活用 ○子どもとつくる防災マップ	災害 防災教育	○防災教育について講義(60分) ○防災マップづくり演習(60分)	大学教員
教育実習を活用したOJT型研修	140分	○教育実習をどう進めていくかのガイダンス ○OJT型研修のあり方と校内研修の重要性を理解することで、研修推進の意欲を高める。	○OJT型校内研修をどう進めるか ○教育実習を活用したOJT型研修の方法 ○教育実習ガイダンス	OJT 教育実習 授業力向上	○OJT型校内研修の意義と方法講義(80分) ○教育実習のガイダンスと実践討議(60分)	大学教員 指導主事
授業研究から「学校づくり」研究へ -学力向上を目指して(1)-	140分	○学力向上担当者が各校の取組の方向性を持つ。 ○「しなのきプラン29」の内容説明を受け、自校の研究推進に役立てる。	○各中学校区でグランドデザイン等の共有と各校が共通して取組む内容の検討	グランドデザイン 学力向上	○長野市の取組講義(60分) ○グランドデザインの情報交換(80分)	大学教員 指導主事
各種調査を活用した「学校づくり」へ -学力向上を	120分	○全国的な学力向上の取組を知る。 ○各校の学力向上の取組につい	○各種調査を活用による学力向上に向けた情報交換	学力テスト	○中学校区における、小中連携による教育実践の研究講義(60分)	大学教員

目指して(2)-		て情報交換を行うことで、自校の研究推進に役立てる。			○情報交換 討議(60分)	
長野市の学力向上を目指して -学力向上を目指して(3)-	140分	○本年度の各校の取組みの情報を共有し、各校の次年度の計画に活かす。	○学力向上フォーラム ○各校の実践に学ぶ	教育課程	○本年度の実践のまとめ ○次年度へ向けた構想情報交換	指導主事

④選択講習について

希望研修については、これまでの教員歴を振り返る「ライフヒストリー」を作成したり、ポートフォリオと連動させている教師力診断等のデータを教員各自が見返し、教員自らの課題を明確にして、計画的に研修を受講することが望ましいと考え、以下の講座を設定した。

講座名 一副題	講座名 一副題	講座名 一副題
小学校国語科授業づくりの基礎	新しい道徳科指導の要点と評価① —免許状更新講習を兼ねる—	不登校支援の最新事情 —組織的な支援—
中学校国語科授業づくりの基礎	新しい道徳科指導の要点と評価② —免許状更新講習を兼ねる—	困っている子が位置づく授業づくり —インシデント・プロセス法—
全国学力調査から見える言語活動 —国語—	キャリア教育の一層の充実を求めて —学校全体での取組みの推進—	発達障害が引き起こす二次障害 —対応の実際—
子どもの「問い」から始まる社会科学 学習—指導計画づくりのポイント—	人間関係形成能力を高めるキャリア教育—企業からの視点を生かして—	読み書きの困難な子への支援 —ライフステージごとの課題—
子どもが目を輝かす社会科資料活用法 —資料づくりのポイントと作成—	市立長野高校で学ぶキャリア教育 —小中高を通じた取組み—	知的障害学級の授業づくり —教育課程編成の手順—
社会科学習における言語活動の充実 —地理的分野の学習を通して—	アレルギー疾患への対応	自閉症・情緒障害学級の授業づくり —教育課程編成の手順—
活用する力を高める数学問題づくり —問題作成とテスト交換—	児童生徒の健康を考える	子どもの困り感を理解する① —WISC-IV—
しなのき授業 算数 —算数授業のスタンダード—	学校登山の安全対策 —学校登山に役立つ医療知識—	特別支援教育コーディネーター研修① —長野市さんさんプラン—
今、求められている算数・数学の力	海での充実した活動のために —安全な臨海学習—	特別支援教育コーディネーター研修② —コーディネーションの実際—
ミクロの世界を探究 —走査型電子顕微鏡—	安全で楽しいスケート教室	全学級で取り組む情報モラル教育
小3理科の授業づくり—生物—	安全で楽しいスキー教室	情報セキュリティ研修 —喫緊課題とその対策—
小4理科の授業づくり—生物・天体—	人の生き方につながる性に関する指導	ICTスポット研修 —タブレット操作基本—
小5理科の授業づくり—地学・物理—	食の魅力と食育	ICTスポット研修—PC室利用の基礎—
これからの理科教育に求められるもの	魅力ある課外活動をめざして	ICTスポット研修—タブレット活用—

	一担当者・顧問のあり方一	
中学校理科・探究的な学びを育む	清掃センターで学ぶ環境教育	ICTスポット研修一書画カメラ一
これからの小学校英語の授業づくり	共に進める「しなのきプラン29」 一平成28年度の取組一	ワード 学校で使えるテクニック
外国語教育における小中連携	教育の最新事情（兼免許状更新講習） 一 教育施策と教育観一	学校配置の教育用ソフトの活用
中学校英語指導の充実のために	教育の最新事情（兼免許状更新講習） 一子どもの発達一	校務を効率化するワードとエクセル
表現力を高める音楽の指導	学校と家庭を支える教育支援体制 一子どもの最善の利益一 （兼免許状更新講習）	エクセル 学校で使えるテクニック
楽しい体育（小・中）	楽しく豊かな学級・学校生活を築く特別活動一教育改革の動向を踏まえて一	学校（学級）で使うパワーポイント
運動習慣づくりをめざして（小・中）	不登校児童生徒への理解と支援 一FR式不登校対応チャート一	学校行事の撮影と写真データの活用
小中のつながりを考えた技術家庭科	しなのき児童生徒意識アンケート 一結果の理解と活用一	ニーズに応じた図書館教育
子どもと共に創る総合的な学習の時間	いじめの予防と早期発見	「信じて、任せて育てる」保育の実際 一「3つの観」を学ぶ一
豊かな感性を育む図画工作の授業 一描画指導の基礎一		

○実施上の留意点

The screenshot displays the 'Teacher Portfolio System' interface. On the left is a sidebar with navigation icons for Home, User Management, Notification Management, Teacher Diagnosis Questionnaire Management, Master Management, Portfolio, Education Practice History, Research History, Qualification/Social Activity History, School Sharing/Off-site Roles, Student Guidance History (including guardian support), Lesson Planning, and Teacher Experience. The main area is titled 'Teacher Diagnosis' and shows a questionnaire for '10~15 years old' teachers. The questionnaire has six items, each with four radio button options: 'One step further', 'Good progress', 'Satisfactory', and 'None'.

まず年度初めに、教員自らが自己の研修歴をきちんと把握することと、教師自身の教師力がどの程度なのかを自覚することが、はじめの一步となる。

前述の指標に基づいて、デジタルポートフォリオでは、教職年数に応じて簡易版ではあるが教師力診断システムを設定してあるので、まずは、自己認識をすることから始めたい。

教師力診断については、「1～4年目」「5～9年目」「10～15年目」「16～20年目」「21年目～」という経験年数による区切りで、簡単に診断ができるように設定をした。

ただし、診断結果は、あくまでも自己を振り返る際の目安なので、診断結果が教員の資質や能力を決定づけるものではないことを、活用に当たっては留意しなければならない。

診断結果は、図のようなレーダーチャートとして示されるので、これまでの研修履歴等と勘案して、今年は「何に」重点をかけて教育実践を展開するのか、そして「研修」をどのように展開するか行動目標を立案する際の参考にしたい。

※質問項目については、資料を参照。なお、レーダーチャートの観点は、以下である。



▶ 行動目標設定

- 学習指導
- 運営1…学校ビジョンの構築
人材育成
- 運営2…教育課程編成 教育研究
推進
- 管理1…安全・健康 環境・衛生
- 管理2…学校情報管理
- 保護者・地域との連携
- 学級経営
- 特別支援教育
- 教職の見識…自己研鑽・探究力
使命感・責任感 法令遵守
- 人間性…コミュニケーション力
連携力 広い視野

※到達目標は、上図のような内容で项目的な内容で十分と考えた。

⑤ライフヒストリーの作成

教師は、日々の業務に追われ、児童・生徒の観察記録や授業記録は作成するが、得てして自らの教職実践記録を作成しているかといわれると、必ずしもデータ化されているとは限らないのが実態である。これまでも、信州大学の教員免許状更新講習において、自分の教職歴を振り返る作業を受講者に実施している。結果として、自分を振り返ることがこれまでなく、自分の「強み」と「弱み」を改めて自覚することができたという感想を多く得ていることから、ライフヒストリーの作成は、教員にとって自らの課題を認識し、計画的に研修を積んでいくための方策として、有効であると考えられる。同時に、自分の教職経験を振り返ることで、自分がどの場面で、またはどのような状況の時にスキルアップしたのか、または、足踏み状態になり苦しんだのかが明らかになり、中堅教員として組織の一員として何をしなければならないのか、また、後輩に対して何をすべきなのかが、漠然としたものから、かなり明確なものへと転換することができると考える。

たとえば、以下に示した受講者のエピソードと満足度、作成しての感想等をみると、明らかに人との出会いと勤務(業務)の環境が、大きくキャリア形成に関わっていることがわかる。

経験年	担当学年等	ヒストリー・エピソード	満足度
1	専科社会	へき地のため授業数が少なかった。ICTについて詳しい先生がいて、いろいろと学べた。	2
2	小1	一年生7名の担任を全力で取り組んだ。校長研の研究授業中にチャボが逃げて大騒ぎしたが、校長先生たちに認められた。	2
3	小2	正規採用となる。学級崩壊(2年)のクラスを立て直すことに全力を注いだ。保護者との懇談の大切さを学んだ。	2
4	小3	万引き、家出など、生徒指導に苦労した1年。保護者との関係づくりに努め、無事改善できた。	2
5	小4	放課後、子どもたちとたくさん遊ぶ。	3
6	小2	〇〇小学校に異動。前校の校長より「学級経営ができる」との話題があったとかで、再び崩壊クラスの担任になる。	2
7	小3	社会科の研究授業を行う。まだ何もできない自分に気づく。	2
8	小1	1年担任。充実した学級となる。不登校児の対応を学ぶ。	3
9	小2	梶田叡一先生に授業を公開。生活・総合や教科授業のカリキュラムは自分でつくることを学ぶ。	3
10	小3	教科研究主任(図工)となり、年上の先生に初めて授業を行っていた。様々な調整に奔走した。	2
11	小4	図工の授業者で造形遊びを行う。総合で県内を鉄道で旅する。	3
12	小1	□□小学校に異動。6学級を初経験。10年研に取り組む。	2
13	小2	生活科と算数で研究授業に取り組む。	2
14	小3	県美研の図工授業で造形遊びに取り組む。	2
15	小4	市指定研究授業を行う。社会科にかかわる先生たちとたくさん話ができて、大変勉強になる。全校研究主任となる。	3
16	小5	大学との連携研究で、雪形の授業を行う。実践のまとめ方などをたく	3

		さん学ぶ。なぜか市のビデオ教材作成委員となる。	
17	小6	市指定研究の授業を公開する。	3
18	中2	特別支援学校に異動。重い自閉症の生徒とかかわる。	2
19	中3	授業公開や実習生の担当となる。	2
20	中2	全校実習主任となる。	3
21	小5	△△小学校に異動。家庭的・学力的に難しいクラスの担任になる。生徒指導に奔走した一年となる。市指定授業公開。	2
22	小6	研究主任、県教委と市教委指定の2つ公開研究授業を行う。	3

<p>[ライフ・ヒストリーを作成して]</p> <p>○印象に残っている授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9年目の国語。梶田先生に「あなたの授業は、子どもと子どもをつなげて考えていくというよさがある」と言われた授業。 ・ 15年目の社会。川上村でレタスがたくさん生産されている理由を、資料や地図など複数の資料を用いて考えていった。子どもの思考や資料の大切さを学んだ。 ・ 16年目の社会。雪形の授業。大学の先生や力のある社会科の先生方の中で、どうやって授業をつくっていくとよいか、また多くの教員に、伝統文化の授業がしやすい資料を作成するのか、真剣に考えた。 ・ 17年目の社会。鎌倉末期の竹崎季長の行動を資料に、ご恩と奉公の関係の崩壊と幕府の崩壊を重ねて考える授業で、子どもたちが真剣に考えてくれたこと。 ・ 22年目の社会。子どもたちが「くらしと政治」の学習のまとめで、お互いに問題を作成し、出し合うことで学習をまとめた。 <p>○自分を伸ばした要素について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、人との出会いだと思う。講師だったとき、指導教官もつかない中で授業を教えてくれた先生、重荷ではあったが、自分に期待をして研究主任をさせてくださった校長先生、伝統文化や教育大綱など、授業をする機会を与えてくださった先生との出会いが、今の自分をつくっている。 ・ 次に保護者と子どもたち。変にお世辞を言うのではなく、子どもたちのために思ったことを言ってくれる保護者や、一緒に過ごした保護者の存在は大きい。また、素直に反応を返してくれた子どもたちの存在も大きい。特に11年目までの若い頃に出会えたことが、「誰の立場に立って授業をするか」ということを考え、立ち位置を見返すように心がけられる今の自分をつくっている。 	
--	--

⑥ 研修講座の個票の作成

前述のように、これまで教育センターで開講する研修講座については、一覧表にして私立小・中・高校に配布していた。しかし、掲載されている情報は「講座名」「開講日時」「対象者」「概要」「講師名」で、その講座を受講することで、どのような課題が解決されるのか、もしくは自分の課題を解決するための講座はどれかを判断するには、不親切であったといえる。

そこで、どのような課題が解決できるのか、事前事後にはどのようなことをすればいいのかを明示することで、より能動的に研修に関割れるようになる仕組み作りということで、

講座ごとの個票の作成を試みた。

一覧表で、大まかな内容の確認を行い、個票で講座の内容について詳しく確認するとともに、集合研修の事前・事後の活動が提案されていることで、集合研修の場だけで研修を終わらせるのではなく、あくまでも集合研修は研修の一部で、継続的な研修の学びへとスキルアップのための研修を深めるきっかけ作りへ進化することが期待できる。

[個票のサンプル]

●●年度 研修講座詳細(個票)							長野市教育センター	
講座番号	3101	講座名	学校組織マネジメント					
開催日	月 日()	対象者	小中教員	受講種別	選択必修	企画者		
会場	市教セ講堂	開始時刻	14:10	終了時刻	16:50	担当者	●● △△	
概要	○中堅リーダーとなっていくための資質能力 ○最新の教育事情と学校組織マネジメント ○学校づくりのためのリーダーシップ ○学校間や地域との連携の進め方							
目的 ねらい	○中堅教員としての自覚を持ち、資質を高める。 ○最新の教育事情を理解するとともにマネジメント力を高める。 ○ミドルリーダーとしての職務を担い、全体をリードする資質を磨く。							
習得を目指すミドルリーダー教員の資質・能力	学習指導	{ 評価 }	[参考図書等]					
	管理運営	{ 学校ビジョンの構築/人材育成 教育課程編成/保護者・地域との連携 }	学校組織マネジメント研修 (文部科学省)					
	児童生徒理解	{ 地域・家庭理解 }	学校組織を強化する プロセスマネジメント研修 (教員研修センター)					
	教職の見識 ・人間性	{ 使命感・責任感 法令遵守 }						
事前準備	自校の中での、自分の役割について考察しておこう。							
研修の流れ	○最新の教育事情についての講義(60分) ○組織マネジメントとリーダーシップ等についての講義と演習(80分)							
留意点								
資料・ワークシート	「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」							
キーワード	○組織マネジメント○リーダーシップ○コンプライアンス○グランドデザイン							
講師1	勤務先・所属	国立教育政策研究所						
	氏名	○○ □□	職名	総括研究官				
	備考							

2. センターでの研修講座と教員免許状更新講習の整合について

これまで信州大学で開講した教員免許状更新講習時のアンケート調査と、文部科学省の委託事業として信州大学が平成26年度に実施した免許更新制高度化のための調査研究事業におけるアンケート調査のいずれにおいても、教育センターにおける研修と教員免許状講習における必修講座との内容の重複の割合が高いという回答が多く、内容や実施方法の改善を望む声が多かった。

しかし、教育センターの講座はスキルアップのための「研修」であり、免許状更新講習は、時代に適合させていく「免許状更新」が目的の「資格認定講習」であるという性格の違いから、教員にとっては煩瑣な「教員の学習活動」になっていることは否めない状況である。

そこで、中核市という小回りのきく環境を最大に活用・運用して、「研修」と「資格認定講習」を効率的に行うことができないかを探った。

具体的には、免許状更新講習の必修講座を研修講座に活用する方策を探ってみた。

前述のアンケート調査で、内容が重複していると回答した教員の多くが、免許状更新講習と「10年経験者研修」もしくは「中堅教員研修」との時期が、ほぼ重なっていることから、効率化を望んでいることから、限られた研修資源をどこまで共通化できるかを試みた。試験的に実施した講座は、免許状更新講習の必修にあたる「教育の最新事情」と選択にあたる「キャリアアップ研修」の2講座である。運用方法としては、研修と講習の共通講座として開講し、受講の立場を「免許状更新講習」とする場合と、「中堅教員研修」とする場合とに、教員が明示し受講するというようにした。そのため、「免許状更新講習」で受講した教員は、認定に必要な確認試験を講座修了後受験するという受講時間差が発生する形式を採用した。

実施内容と評価については、表に示した通りであるが、受講者にとっては、休日ではなく平日受講することができたということで、おおむね好評であった。

課題としては、平日開催のため、複数日にわたって受講しなければならず、学校行事や生徒指導等の関係で、調整が難しかったという状況も発生し、講座立案時の学校行事等との調整と受講者に対する学校内での理解をどのように図るかが課題として残った。

本年度の講座では、免許状更新講習として受講した教員がほとんどであったが、希望研修として受講する教員もいることから、教員の業務に対する多忙感解消が急務とされる今日、この形態での開講を拡大・充実させていく方策、特に10年経験者研修との整合等を図っての開講のあり方を検討していくことが必要である。

[例] 教育の最新事情(4講座設定)…免許状更新講習(必修)

	教育の最新事情①	教育の最新事情②	教育の最新事情③	教育の最新事情④
日時	8月11日(火) 8:40~12:00	8月11日(火) 13:00~16:20	8月12日(水) 8:40~12:00	8月12日(水) 13:00~16:20
担当	市教委指導主事	市教委指導主事	大学教員	市教委指導主事
講座の概要	講義(160分) 「教職についての省察」 ○学校を巡る近年の状況変化 ○教員としての子ども観、教育観等についての省察 「学校の内外における連携協力についての理解①」 ○対人関係、日常的コミュニケーションの重要性	講義(160分) 「子どもの変化」 ○子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む) ○子どもの生活の変化を踏まえた課題	講義(160分) 「教育政策の動向(道徳に重点をおく)」 ○学習指導要領の改訂の動向等 ○法令改正及び国の審議会の状況等 ○「道徳」の教科化について	講義(160分) 「学校の内外における連携協力についての理解②」 ○様々な問題に対する組織的対応の必要性(70分) ・学校組織の一員としてのマネジメント・マインドの形成 ○学校における危機管理上の課題(90分) ・校内外の安全確保に関する内容 ・情報セキュリティなど近年の状況を踏まえた内容
	履修認定試験 (筆記…20分)	履修認定試験 (筆記…20分)	履修認定試験 (筆記…20分)	履修認定試験 (筆記…20分)
その他連絡事項	免許状更新講習として申し込んだ者は、身分証明書持参本講座は、免許状更新講習必修講座を兼ねています(「教育の最新事情①」「教育の最新事情②」「教育の最新事情③」「教育の最新事情④」のすべての受講が必要です)。ただし、扱いについては、教育センターの通常の研修講座と同じです。	免許状更新講習として申し込んだ者は、身分証明書持参本講座は、免許状更新講習必修講座を兼ねています(「教育の最新事情①」「教育の最新事情②」「教育の最新事情③」「教育の最新事情④」のすべての受講が必要です)。ただし、扱いについては、教育センターの通常の研修講座と同じです。	免許状更新講習として申し込んだ者は、身分証明書持参本講座は、免許状更新講習必修講座を兼ねています(「教育の最新事情①」「教育の最新事情②」「教育の最新事情③」「教育の最新事情④」のすべての受講が必要です)。ただし、扱いについては、教育センターの通常の研修講座と同じです。	免許状更新講習として申し込んだ者は、身分証明書持参本講座は、免許状更新講習必修講座を兼ねています(「教育の最新事情①」「教育の最新事情②」「教育の最新事情③」「教育の最新事情④」のすべての受講が必要です)。ただし、扱いについては、教育センターの通常の研修講座と同じです。
受講者数	更新講習…41名 研修…0名	更新講習…41名 研修…1名	更新講習…41名 研修…5名	更新講習…41名 研修…1名
受講者の感想	・改めて今日の学校や、学校を取り巻く環境が近年大きく変化していると感じた。 ・自分の見方、考え方だけではなく他の先生方の新しい見方を学ぶことができた。 ・免許状更新講習を長野市教育センターで開催していただいたことは本当にありがたかった。	・発達障害に関する最新の事が知ることができた。 ・ケースワークがとてもよかった。 ・自分では選択しないであろう研修なので、必修講習になっていたよかった。 ・今の本校にとってとても大事なことを学べた。2学期学校で先生方に伝えたい。	・道徳の教科化への動きについて、小学校の学習指導要領をもとに、今までの表記との違いや考え方、重要としている点をわかりやすく説明していただいて、学校へ帰って先生方に伝えようと思った。 ・自分を見つめ直す時間になった。	・あまり考えて来なかったマネジメント・マインドの必要性が理解できた。 ・ミドルリーダーの責任の重さを感じた。 ・教師自身が常に自己更新していくことの必要性を改めて感じた。 ・定期的に講習を受けることが必要だと感じた。
担当者の反省	・夏休みの平日という時期の設定についても概ね好評であった。 ・認定試験の量と試験時間については検討の余地がある。	・情報的な内容と実践的な内容がバランスよく組みめられた。 ・免許講習に関係なく多くの先生方に受講してもらいたい講座であった。	・中教審の動向に詳しい先生の講義ということで、事前の課題意識調査からも受講者の関心が高かった。 ・免許状更新講習と関係なく多くの先生方に受講してもらいたかった。	・教育センターでの受講が好評なので、来年度も免許状更新講習必修講習として開講したい。 ・統合して一つの講座としたアンケートなど工夫したい。

[例] キャリアアップ研修(2講座設定)…免許状更新講習(選択)と市教委指定研修

	キャリアアップ研修①	キャリアアップ研修②
日時	11月19日(木) 13:20~16:50	11月27日(木) 13:20~16:50
担当	大学教員	大学教員
講座の概要	講義・演習(160分) ○キャリアのふり返りと今後の目標 ・自己実践を振り返り、教員としてのあり方や今後のキャリアアップについて考える ○ストレスマネジメントについて学ぶ 履修認定試験 (筆記…20分)	講義(160分) ○長野県の教育課題と学校マネジメント ～学校組織における「中堅教員」の役割～ 履修認定試験 (筆記…20分)
その他連絡事項	免許状更新講習として申し込んだ者は、身分証明書持参本講座(「キャリアアップ研修①」「キャリアアップ研修②」)は、免許状更新講習の選択講習(6時間)を兼ねています。 長野市キャリアアップ研修について(実施期間2年間)	免許状更新講習として申し込んだ者は、身分証明書持参本講座(「キャリアアップ研修①」「キャリアアップ研修②」)は、免許状更新講習の選択講習(6時間)を兼ねています。
	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>研修の計画</p> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校長との面談を通し、本研修の目的を実現するための研修計画を立案 「研修計画書」を長野市教育センターに提出 済 (研修を2年次に実施する場合も、1年次当初に提出) <p>研修の実施</p> <p>2年間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外研修Aの申込手続き(1年次に実施する場合) 済 ○校外研修(2日)(A、Bの実施順は問わない) 校外研修A(1日:長野市教育センターの指定2講座の受講) 済 校外研修B(1日)(学校長と相談のうえ決めた研修) ○校内研修(1日) 校外研修の修了後、学校長との面談を通して「研修報告書」を作成 →長野市教育センターに提出 <p>研修の報告</p> <p>研修修了後～研修2年次の2月末まで</p> <p>1年次の対象者:平成29年2月28日 2年次の対象者:平成28年2月29日</p> <p>※実施期間中の対象者の異動に際しては、学校長間で連絡をとる。</p> </div>	
受講者数	更新講習…30名 研修…12名	更新講習…30名 研修…12名
受講者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・今までのキャリアをじっくりふり返ってみて、自分を客観的に見つめ直すことができた。 ・自分の強み、弱さを受け入れながらさらにレベルアップできるように自分を磨いていきたい。 ・同僚への対応で苦慮されている先生方が多いことがわかった。 ・私自身と同じような悩みやストレスについて、先生方と一緒に考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に求められる資質・能力から始まり、危機管理の具体的な事例検討まで幅広く学ぶことができた。 ・前回を含めて2回に分けて研修がよかった。内容的にも、今この中堅と呼ばれる時期だからこそ考えるべきテーマとなっていたと思います。 ・自分を振り返りながら、多くのことを考えさせられる内容だった。 ・免許更新講習と兼ねていただいているので、研修にできるために学校体制を整える時間を省けるのでありがたい。 ・半日ずつ2日間の方が学校を出るのも負担が軽い。
担当者の反省	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み等にしてほしい、少しでも遅くしてほしいという、2回に分けるより終日開催をと、様々な要望がみられた。 ・受講者42名中、研修受講者の6名が学校行事の関係で一つの受講できなくなり、校外研修Aを2年次に持ち越した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク、特に事例検討を交えた研修内容がよかった。 ・次年度も、ストレスマネジメントとリスクマネジメントを中心に、免許状更新講習と兼ねて開設したい。

※免許更新講習選択講習と市教委(県教委)指定研修とを兼ねた講座として開講し、研修のみで受講に加え、研修+更新講習として受講することができるよう配慮した。

[参考資料] 平成28年度からの新教員免許状更新講習に対応した講座例

講座名	領域	日時・人数	講習内容	担当講師
教育の最新事情①②	必修	8月8日(月) ①…午前 3時間 ②…午後 3時間 80名	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4項目において、最新の知識や動向を学ぶとともに、今日的な教育課題についての理解を深める。	市教委事務局 指導主事 市教育センター 指導主事
学校と家庭を支える教育支援体制 —子どもの最善の利益—	必修 選択	8月9日(火) 終日6時間 40名	いじめ、不登校、暴力行為、非行といった問題行動等の背景には、家庭や学校、友人、地域社会など、児童生徒を取り巻く環境の問題が複雑に絡み合っている。本講座では、SSWの活動を基に、児童生徒が置かれている様々な環境に対する効果的な働き掛けの在り方、関係機関等との効果的な連携の在り方について講義と演習を行う。	市教委事務局 指導主事 市教育センター 指導主事
新しい道徳科指導の要点と評価①②	必修 選択	① 6月27日(月) 午後 3時間 ② 7月11日(月) 午後 3時間 40名	①…特別の教科としての道徳科について、学習指導要領道徳編に記された目標や内容構成等について基本的なことを理解し、新しい道徳科における評価の意義について考察する。 ②…指導計画の作成方法や、資料開発、中心発問、評価方法など、具体的な道徳科の授業づくりについて考えたり、発表したりする。	市教育センター 指導主事 大学教員等
キャリアアップ研修 ①②	選択	① 10月27日(木) 午後 3時間 ② 10月31日(木) 午後 3時間 40名	長野市の教員を対象に、これまでの自己実践を振り返ることを通して、教員としての在り方や今後のキャリアアップについて考える。 ①…ミドルリーダーとして高めるべき資質能力(主に学年組織マネジメントや学校組織マネジメントの基礎知識、リスクマネジメントの在り方)を学ぶ。 ②…ストレスマネジメントなど感情と向き合うことの必要性を学ぶ。	市教育センター 指導主事 大学教員等

3. 授業研究用教材の作成

授業力向上の研修に関わり、授業研究・授業分析の方法を学び直す研修教材を開発した。これまでの授業力向上の手法として、多様な授業分析法が提案されているが、どうしても教育技術的な観点による考察にとどまってしまうことが多かった。

そこで、教科の目標や特性、つまり「何を目的とした教科の学習」なのかという視点を意識する授業分析のための研修教材を作成した。

漠然とした「学力」論での授業実践ではなく、この学習で身につけさせる「学力」とは何かを考えた授業設計につながるように、「授業」に対して様々な観点分析された授業についての批評を分析し直すことで、教科のと目的や特性、強いては学力というものを、教師一人一人が意識するように仕組んだ研修教材の作成を試みた。

具体的には、まず、分析の観点を示さず、授業ビデオを視聴しワークシート①に感想を記入し、視聴した授業の問題を考察する。この時点では、各自の観点で授業を考察するので、「授業展開」「授業技術」「教材」「素材」「子供の反応」等、教師によって着目する考察の観点はまちまちである。

しかし、一般的な授業研究会をみると、多くの発言は短時間での研究会ということもあり、教師の意図を抽出し、授業を振り返るといふ分析とはほど遠いワークシート①に記されるであろう内容の発表に終始してしまうことも多い。

ワークシート①

○授業視聴メモ
○感想
○問題（改善したいこと）

ワークシート②

○視聴した授業に対するA氏～D氏の各コメントの要点をまとめてください。 【Aのコメント】 【Bのコメント】 【Cのコメント】 【Dのコメント】
○上記4氏のコメントは、なぜ異なったものになっているのか。各氏の授業の見方の違いは？
○自分の立場と近いコメント。

そこで、作成した研修用教材では、視聴した授業に対して、立場の異なる批評者がコメントしたデータを用意し、なぜそのようなようになったコメントになるのかを考察することとした。

さらに、この考察を通して、自分の考えがどの立場のコメントに近いのかを考察し、自分の教育実践に対する立場を再認識する場を設定した。

その上で、再度視聴した授業の改善点を考えると、改めて授業を分析するとは、どういうことなのかを再認識し、観点ごとに分析することの大切さと、教科の目標と学力との関係をどのようにとらえるかを考えることが可能になる。

この作業を通して、授業研究のあり方を校内で再構成する場面が創出されるならば、日々の授業実践についてのリフレクションも充実し、同僚性を発揮した校内研修並びに自主研修が充実が期待される。



[資料]

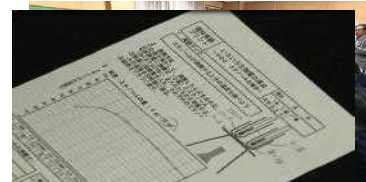
(1) 授業研究用研修教材…中学校1学年理科「身のまわりの物質とその性質」

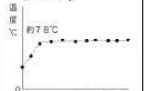
※授業ビデオについては、別途お問い合わせください。

3 単元展開

(1) 状態変化するときの温度 (6時間)

学習活動・学習問題	指導・評価	時
<p>○水が沸騰するときの温度を調べる。</p> <p>・小学校で、水は100℃で沸騰することを学習した。</p> <p>実験して、水が沸騰するときの温度を調べよう。</p> <p>・水は約100℃で沸騰する。</p> <p>○水の沸騰実験の結果をグラフ化する。</p> <p>グラフにして水が沸騰するときの温度変化の特徴を見つけよう。</p> <p>・沸騰している間は温度が変化しない。</p> <p>○水が沸騰するようすのモデル化の説明を聞く。</p> <p>・沸騰しても水の粒はなくなるから同じ数にする。</p> <p>・温度や粒の動きを((○))や○=で表すことができる。</p> 	<p>◇ 小学校で学習した水の沸騰を想起させる。</p> <p>◇ 温度計の読み方を説明する。</p> <p>◇ 水が沸騰したときの温度を確認させる。</p> <p>ア①、ウ①</p> <p>◇ グラフの書き方を説明する。</p> <p>◇ 温度変化にともなう水の粒の変化について、「粒子の保存性」をコンピュータモデルで、「粒子のエネルギー」をBB弾のモデルで説明する。</p> <p>◇ 水20gを粒1個の○とし、粒の動き((○))や気体の粒○=を表現することで、状態変化しても粒の数が同じこと、温度によって動きが激しくなることをモデルで表現できることを説明する。</p> <p>イ①</p>	1
<p>○エタノールが沸騰するときの温度を調べ、グラフ化して水と比較し、エタノールの沸騰をモデル化して説明する。</p> <p>エタノールと水の気体になるときの相違点を見つけよう。</p> <p>・水の沸点は約100℃だが、エタノールの沸点は約78℃である。</p> <p>・水もエタノールも沸騰している間、温度が変化しない。</p> 	<p>◇ 水とエタノールを皮膚につけて、違いを体験させる。</p> <p>◇ 水とエタノールのグラフを比較させる。</p> <p>◇ エタノール1gを粒1個の○とし、粒の動き((○))や気体の粒○=を表現するように促してモデルを作成させる。</p> <p>ア②、イ②、ウ②、エ①</p>	1 本時
<p>○これまでの学習を参考にしながら、赤ワインから純粋な物質をとり出す方法について話し合う。</p> <p>赤ワインからエタノールを取り出す方法を考えよう。</p> <p>・混合物が沸騰し続けると、出てくる気体はどのように変化するか考える。</p>	<p>◇ 純粋な物質の沸点と融点について、説明する。</p> <p>◇ 混合物の沸点について説明する。</p> <p>◇ これまでの学習を想起させて、方法を話し合わせる。</p> <p>エ②</p>	1
<p>○赤ワインの蒸留実験を行い、出てくる物質を同定する。</p> <p>赤ワインからエタノールを取り出してみよう。</p> <p>・1本目の試験管は燃えたので、エタノールが多い。</p> <p>・3本目の試験管は燃えないので、水が多い。</p> <p>・沸点の違いを利用すると、物質を取り出すことができる。</p>	<p>◇ 蒸留実験の方法を説明する。</p> <p>◇ 実験結果を発表させ、</p> <p>ア③、イ③、イ④、ウ③</p>	1
<p>○単元プリントを解く。</p>	<p>◇ 石油精製などで蒸留を利用していることを説明する。</p> <p>エ④</p>	1



(4) 本時の展開					
段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導・評価	時間	備考
事象と出会い	1 肌に触れたときの違いから、水とエタノールの沸騰の違いについて考える。	ア 水は約 100℃で沸騰し、沸騰の間温度が変化しない。 イ 水はぬれたままだけど、液体 X はすぐ乾いて冷たくなった。 ウ 注射の時の匂いがする。	◇ 前時までの学習を振り返らせる。 ◇ 水と液体 X (エタノール) をそれぞれ濡らせた脱脂綿を配布し、皮膚につけさせる。 ◇ 液体 X がエタノールであることを明かし、学習問題を設定する。	10分	水 エタノール 脱脂綿 ペトリ皿
	課題を把握し	学習問題 エタノールと水が沸騰するとき、同じ所と違う所を見つけよう。 エ 気体になる温度は水よりもエタノールの方が低いだらう。 オ 水と同じように実験して、グラフ化したり、モデル化すれば違いがわかるだろう。	◇ 板書してある前時までの振り返りやエ、オのような意見をうけて学習課題を定める。		学習カード
追究して	2 エタノールを加熱しようすを調べてグラフ化する。 	カ お湯に入れたらエタノールの気体が発生しはじめた。 キ 量の少ない方が温度の上がり方が早い。 ク 約 78℃でどちらも温度が一定になった。 ケ 沸騰している間は温度計が変化しない。	◇ エタノールが可燃性であることを思い出させ、エの意見から熱湯で加熱することを説明する。 ◇ 二人一組で、班内で量のちがうエタノールを加熱実験してグラフ化するように促す。 エタノールの温度変化をグラフ化できる(学習カード)。ウ②	20分	試験管 熱湯 ピーカー 卓上コンロ 温度計 クリップ タイマー
	3 実験結果をもとに、グラフ化して、水とエタノールの沸騰のようすの違いを考察し発表する。	コ 温度のばらつきはあるけども、水とエタノールでは沸点がちがう。 サ 少ない方が早く沸騰するが、量が違っても、エタノールの沸点はほとんど同じである。	◇ エタノールの沸点を黒板に記入するように促す。 ◇ 水とエタノールの同じところ、ちがうところを学習カードに記入させ、発表させる。 水とエタノールの沸点が違うことがわかる(学習カード)。エ①	10分	前回の学習カード
まとめ	4 エタノールが気体になるようすをモデル化して本時の学習を振り返る。 	シ エタノールの粒の数は、沸騰しても同じにしよう。 ス 温度が高くなったら、震える記号 () をたくさん書こう。 セ 78℃になったら、気体を書いて、粒に≡をつけよう。	◇ 二人一組で、ホワイトボードにエタノールが沸騰する粒子モデルを描くように促す。 水とエタノールの違いを粒子モデルを使って説明できる(A3 クリアファイル)。イ②	10分	ホワイトボード 粒の磁石 ペン テッシュペーパー



[A氏のコメント]

1, 授業者の言葉づかひの丁寧さ、教科学習の中で機能する人権教育を感じた。また、そこに科学を追究する者同士の友情、仲間意識のようなものを感じた。
2, 導入段階の「事象への直面」で、水と液体 X という事で生徒はエタノールと接した。にもかかわらず、液体 X がエタノールであるとすぐに明らかにしてしまい、「エタノールは水よりも沸点が低い」ことを理解させることだけでその役割を終えてしまうが、「液体 X」を謎の液体として、もっと引き延ばして追究させることはできなかったのか。3, 実験結果を明らかにするために ICT を活用する必要があったであろうか。各グループの実験が間延びして見えた。もっと机間支援することで引き締まった追究活動にできたのではないか。

[B氏のコメント]

安全面を考慮した実験に向けての手順に沿った明瞭な指示と、生徒に役割を与えて全員を授業に参加させようとしているところが印象的であった。生徒が教師の最低限の指示で動いている姿から、日頃の授業の積み重ねによる生徒の育ちを感じる。また、生徒の思考と授業の流れに沿った構造的で分かりやすいワークシートと、そのワークシートを黒板に写しだし書き込みながら進める工夫もよかった。

課題として挙げるなら、教師が教卓のところで次の段取り等に費やす時間がやや長いので、もう少し机間指導を入れることで、気になる生徒や低位生の支援等ができるのではないかと感じた。

[C氏のコメント]

・導入から学習課題の設定まで

生徒と液体 X との出合いで、液体 X のにおいや手につけたときの蒸発の様子からエタノールの沸点を考えると学習問題の設定となります。エタノールを液体 X とするのはよいと思いますが、導入でエタノールというのであれば、わざわざ液体 X という必要はないと思います。それであれば、水とエタノールの沸点の違いに着目できるような導入にして、本時の追究(エタノールの沸点)を焦点化した方

がよいのではないかと思います。また、学習問題「エタノールと水では、沸騰するとき温度に違いがあるのか」では、生徒から「温度が違う」という予想が出ていることから分かるように、「違いがある」という考察になってしまいます。追究の場面で、モデルを使ってエタノールの沸点を説明するのであれば、学習問題を「エタノールの温度はどのように変化するのだろうか」として、エタノールの温度変化に着目した追究ができるようにしたり、「グラフ予想図」のような、どのように温度変化するかを予想してから実験を行ったりすることで、モデルを使って説明する必要感を持たせたいと思いました。このようにすると、次時のエタノールと水の混合物を加熱するときに生きます。

・追究場面

事前に、お湯やワークシートのグラフなど、すべての用意がされており、また、黒板にプロジェクターを使って実験説明をすることで時間短縮が図られていました。実験時間が5分、グラフ化終了まで4分という、実験が10分で収まるのは、効率のよい実験方法と準備があつてこそだと思います。その短縮できた時間を使って、モデルを使って説明し合う活動時間が10分間とることができており、教材研究が有効に働いていました。

・まとめ

沸騰する温度に違いがあるかでは、生徒の結論は出ていますが、ここでは、さらにモデルを使って説明しあっています。モデルのもつエネルギーの大きさの違いが分かるように表現方法が工夫されており、分かりやすく説明することができます。しかし、生徒にとって、どうしてモデルを使って説明するのか、その目的意識が薄いと思います。生徒にとって、必要感があるのかを考えながら、学習問題や学習課題を設定するとともに、予想をしっかりとをもって追究ができるようにしていくとよいと思います。

[D氏のコメント]

- ・授業全体にメリハリがある。・白衣を着ている。(が、前ボタンをとめたい)
- ・板書計画がなされている。
- ・プロジェクターを活用した機能的な板書。・体験や体感、操作活動を大切にしている。
- ・生徒との関係づくり(聞く、話す、かかわる等)が良い。知識理解の定着に課題がみられる生徒にも、意欲的に取り組めるように場の設定を工夫したり、必要感のあるグループ活動を取り入れたりしている。
- ・グループ内での当番活動や役割分担が普段から習慣化されている様子が伝わってきた。
- ・座席表を活用しながら、机間支援の具体的な観点に沿って各テーブル(班)を巡ると良い。指導と評価を同時に行える場面を明確にしたい。
- ・板書の工夫、理解が難しい生徒への配慮がなされている。ICT機器の活用を日常的に行っている。
- ・実験に際し、安全面には配慮しているが、危機管理の面で今一步の点(課題)も散見された。
- ・単元を貫くひとつの軸が読み取られる。(科学的事象を可視化するために図や絵、具体物等を用いてモデル化につなげていく)
- ・目に見えない事象を、様々なモデル化の手法を取り入れながら、中学生なりの表現方法で可視化させようとする工夫が良い。
- ・実験に入る前段階での、個々の予想と見通しをもう少し明確にし、各自のこだわり(沸点は 0°C 位になりそうだから、実験でも、その辺りにきたら特に真剣に温度に注目する姿につながる等)をもたせたい。
- ・温度変化に伴う物質の状態変化を、数値の変化、グラフ化、観察による変容の捉え、モデル化の各手法を同一ステージ上(ホワイトボードやワークシート)で関係付けながら記録させている点が良い。1つの事象を多面的に捉える力が育まれることが期待できる。
- ・各グループ毎の結果(考察)を黒板へ一同に掲示したところで終末を迎えたが、どのように一般化につなげていくかの手法を見届けたかった。

(2) 授業研究用研修教材…小学校6学年算数「およその形と大きさ」

算数科学習指導案 6学年

1. 単元名 『およその形と大きさ』
2. 本時の位置 (全3時間扱い中の第1時)・・・次時: 概形をとらえてディズニーランドのおよその面積を求める。
3. 本時の主眼
不規則な形の面積の求め方を考える場面で、既習の面積を求める公式を使って求めることができなから考えたり、既習の図形に当てはめたりすることを通して、不定型な物は概形をとらえればおよその面積が求められることに気づき、およその面積を求める見直しをもつことができる。
4. 指導上の留意点
・概形をとらえたり、既習事項の公式を生かしたりすることに重点を置くため、計算には電卓を使用する。
・実際の面積については測尺に扱い、本時は同じ縮尺で縮小した地図上の面積を求める。
5. 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・援助及び評価	標	備考
導入 (課題提示)	1 今日の問題を読んで予想し、比べる方法を考える。	【今日の課題】 ディズニーランドとディズニーシーはどちらの方が広いでしょう。 ・どちらも同じように見えるけれど、ディズニーランドの方が少し大きいと思う。 ・長さが分かれば面積を求めて比べられそうだよ。 ・でこぼこしているから面積をどうやって求めたらいいかわからないな。	○本時の学習問題を絞り込むことができるように、今までの面積の求め方と異なる点に注目し、全体で共有する。	5	ディズニーランド・ディズニーシーのマップ
	2 解決の見直しを持つ。	【学習問題】 でこぼこの形の面積の求め方を考よう ・面積と言えば、三角形や平行四辺形、台形やひし形の面積は公式があったな。 ・公式は分かるけど、そのまま使えないと思う。 ・ランドはとがっているから、三角形っぽい形で公式を当てはめれば出せると思う。 【学習課題】 だいたいどの形やいろいろな図形の面積を求める公式が使えそうだ	○本時の追究の見直しをもつことができるように、面積の求め方について使えそうな既習事項がないか投げかける。	8	境界線が分かる航空写真
展開	3 ディズニーランドの面積の求め方について考え、自分の考えを学習カードに書く。	・でこぼこを無視して線を引くとだいたい三角形に見えるから、三角形の面積の公式を使って面積を出せばいい。 ・大きな四角形だと考えればできそう。 ・でこぼこを無視って言うんだけど、これは、何角形って考えればいいのかわからないな。	○自分の考えに根拠をもてるように、個別に追究し学習カードに図や説明を書く時間を設ける。 ○自分から点や線を全体で追究することができるように、困っている児童には分からない点はどこか問いかけて明確にし、全体に投げかける。	15	学習カード
	4 全体で自分の考えを説明し合う。	・ディズニーランドは56.2cmです。ここに線を引くと、大きな三角形が見えたので、辺の長さとお高さを測って底辺×高さ÷2に当てはめて求めました。 ・大きな四角形だと考えて計算したら、63cmになりました。 ・みんな自分で線を引いたりして、知っている形にしているな。 ・シーは四角形がくっついている感じから、台形とか平行四辺形の公式が使えそうかもしれない。	○自分から点や線を全体で追究することができるように、困っている児童には分からない点はどこか問いかけて明確にし、全体に投げかける。 ○自分から点や線を全体で追究することができるように、困っている児童には分からない点はどこか問いかけて明確にし、全体に投げかける。 ○不定型な物のおよその面積を求める見直しをもっている(発言・ノート)	12	
終末 (まとめ)	6 本時のまとめをする。 7 本時の学習を振り返る。	・でこぼこの形も、だいたいどの形を考えれば面積を求めることができる。 ・はじめは公式が当てはまらないと思っていたけど、友だちの考えを聞いて、だいたい三角形とかだいたい四角形とか考えて、公式に当てはめれば面積が求められることが分かった。	○学習問題や学習課題に立ち返り、本時のまとめをする。 ○本時の学習で分かったことや、自分が考えたことを具体的にふり返りながら書くよう促す。	5	学習カード



[A氏のコメント]

- 学習課題「面積の大小」に注目させるまでの時間が無駄に長い。来場者数などは不要。
- 全体に、教師の話が長く多い。(不要な内容が多い) 静かに追究する時間がほしい。
- 教師の声が、大き過ぎる。必要最小限がいい。
- 児童に問いかけながら、教師がその答えをしゃべってしまっている。
- 児童も教師も運動着だが、わけがあるのか?
- せっかくのコの字型机配置なので、隣の児童や班の中で、意見を出し合ったり考え合うなど、「学び合う」工夫を設定したい。
- 学習課題が途中から「どちらが広いか」から「面積を求めよう」に変化してしまった。「???の方が広い」という予想(仮説)を立てて、その確かめのために「面積を求めて比較する」という流れならば、学習課題から、面積を求める作業が無駄なく連続する。
- 黒板右上の「聴き方名人???」は授業に関係ないので消しておきたい。
- 机間指導で個別に指導する際は、その子だけに聞こえる声量がいい。(他の児童にとっては不要)
- 説明や指示をする際に、左右に首を振りながら、(ひとりひとりに声をかけるようにして)全体に顔を向けると児童の集中度が上がる。
- 教師の表情が、明るくはきはきしていたのはよい。

[B氏のコメント]

- 全体を通しての概観
 - ・子どもと教師の関係はよさそうで、雰囲気がよく、元気に学習している。
 - ・概数の学習に、多くの子どもたちが興味を持っているであろうディズニーリゾートを用いたことは面白い。若い教師らしい感性を感じた。子どもたちの意識を継続させていくエネルギーにはなる。
 - ・学習問題と学習活動(学習内容)にズレがあって、授業全体の主眼がはっきりしない。
およその面積の違いを導き出す方法を考えさせるのか、およその面積を出させるのか、あるいは、導入の段階では、ランドとシーを比較しようとしたのだから、両方のおよその面積を出して比べるべきだったのか、教師の迷いがあった。
- よかった点
 - ・自分で考えたり、小集団で考えたり、全体で共有したりする多様な学習形態によって、気づきや考えを深めさせようという意図は感じられた。
- 課題
 - ・導入の段階では、2つを比べようという意識を持たせておきながら、実際には、片方だけの面積の出し方に絞ってしまったのは、肩すかしとなってしまい、問題解決の満足感が得られない授業になってしまった。
 - ・グループで、いろいろな方法を考えたのに、実際には、ほとんど同じ方法でやるようにしてしまった。子どもの気づきや多様な考えを引き出せていない。
 - ・学習問題や学習課題を明確にして、メリハリとテンポのある授業展開を工夫したい。

[C氏のコメント]

- ・コの字の座席配置が良い。机間支援を丁寧に行っているが、具体的な視点を持ち座席表を携帯したい。
- ・学習環境として、教室黒板上方の壁がスッキリしていて刺激物が少なくてよい。ただし、左手側のスチール棚にペタペタと貼り物が多いのが気になる。
- ・友との関わりの場は良いと思うが、個人の考えを練る時間をある程度設けたい。→始めから友だちと相談し合っている子どもの姿が見受けられた。
- ・教師の問いかけに対する反応の良さや表情等などから、子どもと教師との好ましい関係づくりがなされていると感じた。また、子ども同士の関係も良好に感じられた。
- ・全体的に教師の指示、説明等口数が多い。言葉の精選を図りたい。言い直し、置き換えが多い。

- ・ どうやったら追究できそうか、具体的な見通しを練り上げる場の設定は必要なかったか。
- ・ ディズニーランドやディズニーシーを題材に選択したことは、子どもの興味・関心をひきつけるのには良いと思うが、子ども達にとって両者を比較する必要感がない。大阪のユニバーサルスタジオやアメリカのディズニーランドとの比較ではどうかなど、子どもの意識をもう一歩踏み込んで捉えていきたい。
- ・ 児童が発した考えや気づきに対し、教師がタイムリーに問い返しをして、もう一歩背後にある考えや想いをより具体的に引き出そうとしている点が良い。

[D氏のコメント]

- ・ 導入から学習課題の設定まで

東京ディズニーランドとシーの入場者数やアトラクション数を比較することは、児童に「比較する」という意識を持たせることにつながる導入でした。その導入の上で、面積に目を向け、二つの面積の大きさを比較するとどちらが大きいかということ学習問題に設定しました。児童にとっては、今までに出合ったことのない形の図形ではありますが、ディズニーランドとシーの面積を「比較する」という、導入からの一連の流れから必要感の生まれる学習問題の設定であったと思います。

そして、児童が図形の求め方を予想する場面で、教師は、「今までと比べて違うところがありますか」、「面積を求めるとき困ることはありますか」と問いかけていました。児童は、今までに出合ったことのない図形であっても、これまで学習してきた三角形や円形、四角形の面積の求め方を基に予想を立てていました。この「今までと違うところ」や「困ること」を問いかけることは、これまで児童が習得した知識を振り返って、解決が困難だと考えるところを焦点化することにつながり、児童の困り感から、学習課題の設定につながる発問であると考えられ、よい発問だと思います。しかし、児童の発言をあまり聞かずに、教師から学習課題を「でこぼこしている部分のだいたいの面積の求め方を考えよう」のように設定しており、児童の意識とのずれが心配されます。児童にとって、学習問題は、どちらの面積が大きいかという比較なのですが、学習課題は、面積を求めることに追究の過程が修正されています。ここでは、面積の求め方を考えるだけでなく、比較して調べるためにどのようなところで困っているか（ディズニーランドやシーの形をどのように区切るのか、面積をどうやって求めるか、どの知識が使えるかなど）を児童から聞き出し、それらを文章にまとめて例えば、「三角形や四角形、円形に着目して、形を細かく分けたり、形を大きく見たりして面積を求めて比較しよう」のように、学習課題として設定した方がよいと考えます。

- ・ 追究場面

追究場面では、児童は、周囲の友と意見交換をして面積の求め方を考える姿が見られました。また、ワークシートにはマス目の上にディズニーランドの形を描いたものも用意されており、児童が自由に作図することによって面積を求めることができる手だても用意されていました。このような活動から、ディズニーランドの形を三角形や四角形に細分化して面積を求める考えや、形を大きく見て三角形や円形として考えるなど、様々な考えが発表されました。教師は、このような児童の多様な考えを肯定的に受け止め、「どのようなやり方でも、だいたいの面積が分かればよい」と投げ返していました。このように、学習課題が「面積の求め方を考えよう」であるため、児童から多様な考えが出てきてよいと思います。しかし、学習問題は、どちらが大きいかです。マス目方眼紙に描かれたディズニーランドだけでなく、シーの図も用意しておくべきです。また、友と何を観点に（面積の求め方なのか、大きさの比べ方なのか）意見交換をするのかも示す必要があると思います。よく追究ができる児童ですので、学習課題の解決につながるような考えが出てくる追究となるように手だてを考えたいです。

- ・ まとめ

求めた面積の平均値をとることに意味があるのか疑問です。大きさの比較ですので、各自の考えをディズニーランドとシーに適用して考えればよいと思います。従って、面積の求め方が異なる児童の平均値をとっても意味をなしません。まとめの場面では、どのような面積の求め方があるかを確認するとともに、次時に向けてどのように比較していくかを確認するとよいと思います。

5. 研修の評価方法, 評価結果

①評価方法

成果と課題について, 研修後にアンケート調査や, 講座を企画し実施を担当した指導主事を中心に, 受講者に対する聞き取り調査を行った。

②評価結果

- ・教員の資質・能力の向上をめざした教職歴に応じた「指標」を整備したことで, 自己課題を明確に意識してもらうことが可能になった。
- ・ポートフォリオを活用したり, ライフヒストリーを作成したりすることで, 教師自身の教育実践を振り返りが行われ, キャリアアップのための目的意識を生み出すことができた。同時に, 中堅教員として校内で何をしなければならぬのかを自覚するきっかけ作りにつながった。
- ・2講座ではあったが, ミドルリーダーの「研修」と, 資格認定である免許状更新講習とを連動させたことで, 教員の指定研修等に対する負担感が軽減できたと同時に, 受講者の校内における自身の位置づけを自覚し, 組織の一員として活動しようという意欲づけにつながることができた。
- ・授業研究の研修用教材は, 授業分析の対象教科数がまだ少ないため, すべての教科の目的や特性を意識する検証はできなかったが, 授業研究のあり方を問い直すきっかけ作りには有効であった。

6. 研修実施上の課題

初任者研修から始まり, 退職まで学び続ける研修のあり方を意識してもらうための, 教職歴に応じた教員の資質・能力の指標を, 今回まとめることができたが, 実際にこの指標を活用した研修を教員各自が主体的に展開しなければ, 絵に描いた餅状態になってしまう。

これまで, 計画的な研修を展開するための基礎作業として, ポートフォリオの活用についても提案してきているが, 小まめに教員自身の教育実践を記録していくという作業が結構大きな課題である。教育の情報化ともあわせて, 教員自身のデータ作成をどのように展開していくかが今後の大きな課題といえる。

研修講座について, 内容に対する個票を作成し, 一回の研修に終わらせない方策を講じたが, 継続的に教師がスキルアップを試みていくには, 教育センターが講座の研修にとどまらず, 恒常的な支援を展開する環境作りも, 今後重要となってくる。

研修と, 教員免許状更新講習の整合性を図る試みを行ったが, やはり開講の日程的な課題は残ってしまった。ICTを活用した On-Demand 型の教材や研修システムを開発することで, センター側の限りある教育資源と方法と, 教員側の限られた研修に割ける時間とを有効に活用する方策を今後検討していく必要がある。

平成 27 年度 研修講座の反省

研修区分	ミドルリーダー研修	講座番号	3101	受講者数	77 名
講座名	学校組織マネジメント				
講師氏名	大学教員 指導主事	連絡先			

実施期日	平成 27 年 6 月 29 日(月)
担当室	研修・研究担当
担当者	指導主事

講座の反省と次年度への課題

【アンケート結果】																			
年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入	A	B	C	D	E	未記入	
人数	0 (0%)	0 (0%)	37 (48%)	40 (52%)	0 (0%)	0 (0%)	人数	76 (99%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	実践に役立つか	52 (68%)	24 (31%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
													演習・資料等は今後 に活かされるか	52 (68%)	25 (32%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【考察】

- 研修講座の概要
 - 講義 「主任の法的根拠と組織の機能」教育センター 指導主事
 - 講義・演習 「学校組織マネジメント」
 - 長野県の教育課題と学校組織マネジメント ・基礎知識とコンプライアンスの意識高揚
 - リスクマネジメントをどのように進めるか 大学教員
- 受講者の感想から
 - 学校組織マネジメントということを入り口として考えていたが、この研修で重要性を痛感した。
 - 自分や学年のことをやっていたらよいところから、学校を作っていくための視点をもって働く年代となったことを実感できた。
 - 最新の資料など、とても分かり易く参考になりました。教職員が常識的に知っていなければならない法的知識があることを知りました。今後目を向けていきたい。
 - 次世代を担う教員としてのミドルリーダーの位置づけがよく分かりました。
 - 何を、何のために、何のために、どうするかという、どういふ立場なのかなど具体的に考え、理解することができた。
 - 自分の教務主任としての役割を改めて考え直すことができた。自分のできていることと不十分なきりしたので、今後に活かしていきたい。
 - 外国や他県の状況など知って、自分があたりまえとしか思っていなかったことに気付くことができました。
 - 本校の教員全員に聞いて欲しい内容であった。県外のことなどもっと知らなくてはと思いました。
 - ケースメソッドをしながら考え合い、研修が深まったように思います。学校でも同様な研修をしたい。
 - 小グループの演習を適宜入れていただいて、講義と演習がうまく絡み合い、効果的に内容が把握できた。
 - テンポがよく、短い時間でグループ討議ができ、どんどん発表させるなどなど授業にも取り入れたい。
 - 演習を中心に考えることが日頃不足していることを実感しました。教育実践、仕事に活かしていきたい。
- 反省と次年度への課題
 - 立場や役割等再認識、「刺激的な研修」であったということを多くの受講者が書いている。他県のこと、練習問題、グループ討議等内容はよかった。時間が足りなかったため、内容は精選したい。
 - 続きをやって欲しい、夏休みに1日かけてやって欲しいという声もあった。
 - ミドルリーダーとしての重要性が理解され、学校で活かされていく手応えを感じられたので、次年度、新任教務主任及び副主任等を対象として構築していきたい。

平成 27 年度 研修講座の反省

研修区分	ミドルリーダー研修	講座番号	3102	受講者数	68名
講座名	学年組織マネジメント				
講師氏名	教育センター指導主事	学校教育課指導主事	連絡先	学校教育課	

実施期日	平成27年5月25日(月)
担当室	研修・研究担当
担当者	指導主事

講座の反省と次年度への課題

【アンケート結果】																			
年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入		A	B	C	D	E	未記入
人数	0 (0%)	10 (15%)	42 (62%)	16 (24%)	0 (0%)	0 (0%)	人数	67 (99%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	実際に役立つか	37 (54%)	27 (40%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
													演習・資料等は今後になかされるか	42 (62%)	25 (37%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【考察】

1 研修講座の概要

ア 講義 「教務主任・学年主任等の法的根拠」 指導主事

イ 講義・演習 講師 学校教育課 指導主事

(ア) 講義「中堅教員としてリーダーシップを発揮する秘訣とマネジメント」

(イ) 演習 「学校グランドデザイン」

(ウ) 協議 学年運営にかかわる情報の交換・協議

2 受講者の感想から

○法的なこと、主任としての自覚の面（ミドルリーダーの意識）

- ・学年主任としての責任を自覚することができ、進むべき、やるべき道ははっきり見えてきた。
- ・今まで自分の学級中心で考えていましたが、学年全体を見なければと責任を感じている。
- ・法的根拠を知って、ことの重要性を改めて学ぶことができた。
- ・自分のキャリアを伸ばしつつ、視野を広くもって、相談、アドバイスなどができるとよいと思いました。学年、学校の連携を考えるよい機会となりました。

○マネジメントの講義・演習の面

○全校のグランドデザイン冊子の資料

- ・全校のものがそろっている貴重な資料で、これだけのものを比較できる機会はなくありがたい。
- ・校長、教頭先生だけでなく、全ての先生方に回覧してみせたい。大きな財産だと思いました。
- ・各学校のよいところを取り入れて自校のグランドデザインづくりに活かしていきたい。
- ・作るたびに、自分の意見が言えるように成長していきたいと思った。もっと活用したい。

○コーチング、その他全般

- ・コーチングのDVDなど大変参考になった。時間を取って、しっかり最後まで見て活かしたい。
- ・答える→応える 作る→創る 使う→活かすという3つのキーワードが分かり易かった。
- ・参加型で、中学校区で集まったの会話等とてもよかった。（多数）
- ・知らなかったことがたくさんあり、これからの教員生活に大いに刺激をいただいた講座でした。

3 反省と次年度への課題

- ・中堅の力量アップを図るという目的を果たすことができた。具体編として2回目も構築したい。
- ・法的根拠、マネジメントの基本という内容、小中連携しての考察等の方法が有効であった。
- ・グランドデザイン冊子やコーチングのDVDなど準備した資料が大変効果的であった。
- ・次年度は悉皆で無くても求めて受講するような研修体制になるともっとよいと考える。

平成 27 年度 研修講座の反省

研修区分	ミドルリーダー研修	講座番号	3501	受講者数	39 名
講座名	OJT型研修を進めるために				
講師氏名	大学教員	連絡先			

実施期日	平成 27 年 4 月 20 日(月)
担当室	研修・研究担当
担当者	指導主事

講座の反省と次年度への課題

【アンケート結果】																			
年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入		A	B	C	D	E	未記入
人数	2 (5%)	0 (0%)	10 (26%)	27 (69%)	0 (0%)	0 (0%)	人数	20 (51%)	2 (5%)	14 (36%)	3 (8%)	0 (0%)	実践に役立つか	14 (36%)	21 (54%)	4 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
													演習・資料等は今後 に生かされるか	10 (26%)	25 (64%)	4 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【考察】

- 研修講座の概要
 - 講義① 大学教員
 - ・OJT型校内研修をどう進めるか ・長野市の教育実習で大事にしたいこと
 - ・教育実習ガイダンス
 - 講義② 指導主事
 - ・校内研修を充実させていくために ・しなのきプラン29とOJT
- 受講者の感想から
 - ・昨年の研修を受けて、4月からOJTを意識した研修を計画しています。若手とミドルリーダーの研修を行い、教生が来たときに、若手がミドルリーダーの技術を説明するような展開にしたい。
 - ・オフサイトミーティングのように気軽に語り合える機会がもてたらいいと思いました。
 - ・教生指導は、自分を見返すことと同じという言葉が心に残りました。実習を受け入れる意義を全員によく説明し、「板書」とか「机間指導」というように自分が授業をしてみたいところを出してもらいたい。
 - ・「やって見せる→説明する→・・・」の話があったように、指導者自身の成長があるところに価値を見いだすのがOJTのよさと思いました。
 - ・個々の状況、子の特性に応じ臨機応変に対応する。まさに自分の「くせ」の出るところである。自分を見返すチャンスと考え、教生と共に学んでいきたい。
 - ・教育実習をきっかけに教材や題材の研究を行っている。もっと研修として活用する方法があると考えているので、本日の配布資料「A中学校、B小学校のレポート」は、改善策の資料となりそうです。
 - ・しなのきプラン29についてもっと知りたいという意見も多数あった。
- 反省と次年度への課題
 - ・講師の説明が分かり易かったので、「教育実習を活かして」ということが大変よく分かったという声が多かった。また、この講座の積み重ねによって、ねらいが定着し、実践されていることが分かった。
 - ・他団体の会場使用と重なって開催日を急遽早めたが、次年度は予定通り少しでも遅らせていきたい。

平成 27 年度 研修講座の反省

研修区分	ミドルリーダー研修	講座番号	7261	受講者数	80 名
講座名	いじめの未然防止と早期発見・早期解消				
講師氏名	大学教員	連絡先			

実施期日	平成 27 年 6 月 25 日(木)
担当室	研修・研究担当
担当者	指導主事

講座の反省と次年度への課題

【アンケート結果】																			
年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入		A	B	C	D	E	未記入
人数	10 (12%)	12 (15%)	23 (29%)	35 (44%)	0 (0%)	0 (0%)	人数	65 (81%)	10 (12%)	1 (1%)	4 (5%)	0 (0%)	実践に役立つか	48 (60%)	28 (35%)	2 (2%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)
													演習・資料等は今後 に活かされるか	38 (48%)	36 (45%)	5 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)

【考察】

1 研修講座の概要

- 講師 大学教員
- 講義・演習「いじめの未然防止と早期発見・早期解消」
 - ・トラブルをいじめに発展させない、いじめの起きにくい学級づくり
 - ・いじめが起きてしまったときの早期発見・早期解消

2 受講者の感想から

- ・こんなお話を待っていましたというのが率直な感想です。ビジョンが必要だと言うことに納得させられました。
- ・個を伸ばして組織を伸ばすのではなく、組織みんなで取り組み成長し、個を伸ばしていくことを聞いて、すごく元気になりました。
- ・計画にはできないことは掲げない、できそうなものを掲げるということを聞いて、本校の計画を見直してみたい。
- ・先生の金太郎飴のような子にしているというお話はとても引き込まれるものでした。「いじめかもしれない」と疑われるもの全てに対応する、情報を提供してくれた子をしっかりと守るということを大事にしたいと思いました。
- ・「ビジョンのない取り組みに学ぶ意欲は生まれない」と聞いて、基本計画、年間計画をいかに具体的なものにしていくか、その大切さを改めて感じました。
- ・わずかなところからみんなで意識し合うアンテナの高い集団でいられるよう、教職員の自律性を高めたい。
- ・「荒れへの押れ」いやなことを言われたときへらへらしている子たちのそれが守りの姿勢であるということが分かることができる自分でありたいと思いました。
- ・「多様性の受け入れ」という課題を掲げて取り組んでいきたいと思いました。
- ・加害者の指導について、その子の成長につなげるよう考え、関係修復的正義の実現もできるよう考えたい。
- ・教師は社会を変えるという言葉、身の引き締まる思いで聞いた。同僚性ということも心に留めて協力し合う職場になっていければいいなと思った。
- ・不登校についても聞いてみたいなと思いました。

3 反省と次年度への課題

- ・さすがに分かり易く、学ぶことの多い講師で、学校で頑張ろうと元気をいただいたという声が多かった。
- ・不登校についても若干触れてくださり、聞きたいという声もあるので、次年度以降それも考えたい。

平成 27 年度 研修講座の反省

研修区分	ミドルリーダー研修	講座番号	8191	受講者数	81 名
講座名	学力向上推進者会①				
講師氏名	大学教員 指導主事			連絡先	

実施期日	平成 27 年 5 月 21 日(木)
担当室	研修・研究担当 学校教育課
担当者	指導主事

講座の反省と次年度への課題

【アンケート結果】																			
年代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	職種	教諭	講師	管理	その他	未記入		A	B	C	D	E	未記入
人数	5 (6%)	14 (17%)	38 (47%)	24 (30%)	0 (0%)	0 (0%)	人数	79 (98%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	実践に役立つか	55 (68%)	25 (31%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)
													演習・資料等は今後 に活かされるか	46 (57%)	32 (40%)	2 (2%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)

【考察】

1 研修講座の概要

ア 講義 「しなのきプラン29」について 学校教育課指導主事 20分

イ 講演 演題 「学力を育てる ～大阪の人権教育の視点から～」 120分
講師 大学教員

2 受講者の感想から

ア しなのきプラン29の説明について

- ・郡外から来た自分にとって理解できる機会となった。特に志水先生から理論的な解説を聞いてよかった。
- ・C学力を大事にするという理由がよく分かった。
- ・しなのきプラン29が志水先生の理論に基づいて創られたことを大変嬉しく思いました。長野市の職員として誇らしい。
- ・講師のお話を聞いて、よりいっそうしなのきプラン29の山邊先生の説明のことを深く理解できた。
- ・このプランが学校でうまく実践されれば、学力向上につながると思う。

イ 講演について

- ・具体的で大変分かりやすく、学力の樹の例えで、子どもたちの何を伸ばして行けばよいのか理解できた。
- ・学力の向上は、人権教育が基盤となっていることを改めて感じた。
- ・いままではっきりとらえることのできなかつた「学力」について納得のいく内容でした。習慣が意欲を生むというキーワードが印象的でした。
- ・「習慣が意欲を生む」「子どもを叱るのではなく怒る」学校の実践など開眼したような思いです。
- ・スクールバスモデルに関して、初めてのモデルとして、「力のある学校」のイメージをもつことができた。
- ・隠れたカリキュラムの話が印象に残る。教師が言葉でなく、態度や考え方を身につけることが大切と思った。
- ・組織的な取り組み、全校的な取り組みの大切さを感じた。やはり全校体制の取り組みが大切。
- ・集回づくり、一人一人を大切に、大人が手本となる、そのために人権感覚を磨き続けたいと決意した。

3 反省と次年度への課題

- ・しなのきプラン29についての理解が、学校現場にこうして浸透していくことを続け、実践につなげたい。
- ・志水先生から学力向上について、深く本質をつくお話をしていただきよかった。
- ・学校全体の実践を推進するキーパーソンとしての自覚がまだ持てない受講者もいるので、このようなミドルリーダーの研修講座等で繰り返していきたい。

キャリアステージ		第三期(向上期1)		第四期(向上期2)		第五期(充実期)		
		10年～15年 実践力を磨き専門的な知識や技能の習得を図る。		16年～20年 専門的な知識や技能を高めグループのリーダーとして推進力を発揮する。		21年目以上～ 豊富な経験を生かし広い視野で組織的な運営力を高める。		
		資質能力の内容	講座	資質能力の内容	講座	資質能力の内容	講座	
学び続ける教師	教職専門性	学 術 的 素 養	授業設計 授業実践 教科経営 授業分析 評価	授業諸比分析・評価 (授業分析)	児童生徒の実態に的確に把握し、指導計画を修正したり、学習形態や教材の創意工夫をしたりできる。 授業を公開し、校内の職員に授業力向上の視点をもって働きかけ、若手教員を育成することができる。 今日の教育の動向を把握し、求められる専門性を追究するとともに、それらを校内に広めることができる。	これからの〇〇教育 実りある授業研究のために	教科における自校の教育課題を分析し、具体的な取組を提案、推進することができる。 確かな学力の向上を目指し、児童生徒の実態に応じた創意工夫した教材を開発することができる。 学校目標を踏まえ、具体的な教育活動を示した年間指導計画を作成することができる。 授業分析や評価について、学校全体にフィードバックできる。	組織で取り組む学力向上
			学校ビジョンの構築	学校組織・学級経営 学校組織の一員として 学校運営Ⅰ 学校教育目標の理解と指導	マネジメント・マインドを育成し、学年経営や教科経営など組織運営に主体的に関わり、特色ある教育活動を実践することができる。 教育の最新動向を把握し、自己啓発が求められていることを理解して、学校を活性化するための実践的指導ができる。	学校組織マネジメント 教育の最新動向を考える 学校運営Ⅱ 学校組織マネジメントと教育活動	教育に関する動向等を理解し、学校グランドデザインを作成することができる。 教職員間の連絡調整を図り、教職員や関係機関と協働した取組による学校運営ができる。 幼保小中高を見据えた校種間の円滑な接続を意識した教育を実践することができる。	学校組織マネジメント 学校取組連携一貫教育とコミュニティースクール 主体的な学校運営 学校グランドデザインを考える 小中連携一貫教育を考える
			人材育成 (同僚性の構築)	同僚性の理解と概要 同僚性の理解と構築 同僚性を理解する	教師力向上の視点をもって周囲に働きかけ、お互いの教育方法や指導技術を公開し合いながら、指導観を共有して指導力を向上させていくことができる。 学校インターンシップの効果について理解し、教師力を高め合うことができる。	QITの実践・理解 組織を活かすQIT 教師力の向上 同僚性を育む学校組織 学校インターンシップの進め方	管理職と連携して教職員の資質・能力がより向上するための仕組みを作り、計画的に推進することができる。 学校インターンシップ等を活かして、最新の課題にも協働して取り組む体制を構築することができる。	私が働ける教師力 チームで課題に立ち向かう 学校における人材育成 学校における新たな課題と体制づくり 学校インターンシップの活用

危機管理	教育課程編成 教育研究推進	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の教科等の目標を十分に理解し、系統的で、計画的な指導ができる。 専門性や技術を高めるために積極的に教育研究ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科等の特性の理解 学習指導要領の理解 学習指導要領と学習指導 自己の教育技術を磨く 教科等研究の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> 今日的な教育の動向や学習指導要領の改訂などを的確に把握し、教育課程の実践研究を推進することができる。 教材開発や指導力向上のための研究を行い、校内に広めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の理解と実践 学習指導要領と教育課程の編成 今日的な教育の動向とカリキュラム 教材開発と教材研究 教育研究と指導力 全校研究の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成や改訂について申発になって自校の学力を向上に貢献できること。 研究成果を活かした提案性のある授業を公開するなどして、全体の授業力向上を推進できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程編成のために 教育課程の改善 教育課程編成における課題を考える チームで課題にあたる 学力向上をめざした授業づくり
	学校安全	<ul style="list-style-type: none"> 生活安全、交通安全、災害安全について理解し、学校安全計画に基づいて安全指導ができる。 火災や自然災害等を想定した避難訓練等を計画し実施できる。 校内活動・校外活動等の安全・緊急時の行動計画を立てることができる。 交通安全について、状況に応じた指導ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全の理解と実践 学校安全教育の理解と推進 校内・校外活動の安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> 安全教育に主体的に取り組み、より実証的な学校安全に関する実践ができる。 情報収集体制の整備や充実などに積極的に取り組み、科学的な学校安全を推進することができる。 自然環境や教育環境の安全に関する課題について経験を活かして対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実証的で科学的な学校安全 学校安全環境の整備と充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全計画の策定と内容を充実させる組織的取り組みの推進ができる。 危険等発生時の対処要領を作成し、事件・事故、災害への的確な対応ができる。 地域社会、家庭等との連携を図るとともに学校施設の安全確保と危機管理体制を整備することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学校安全の推進 学校安全計画への組織的取り組みと危機管理体制の整備 保健主事の役割と理解
	健康・学校 環境衛生	<ul style="list-style-type: none"> 保健管理と保健教育について理解し、発達段階に応じた健康教育を推進することができる。 日々の生活での疾病やけが、アレルギー等の応急処置ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健教育の理解と実践 健康教育の理解と推進 応急処置の仕方と理解 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病や各種の疾病について理解し、その実践把握に努め、適切な対応をすることができる。 メンタルヘルスを含む児童生徒や職員の健康についての問題や校内の衛生管理への理解意識をもち、的確な対応ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病等の理解と対応 健康とメンタルヘルス 個に応じた学校保健 	<ul style="list-style-type: none"> 学校環境衛生等、学校教育活動に必要な健康や安全に関する体制を構築することができる。 労働安全衛生管理体制の管理と推進ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学校保健の推進 学校教育活動と健康、安全体制づくり 学校環境衛生 労働安全環境の管理と推進
	学校情報管理	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般にかかわる情報セキュリティ対策の目的や学校セキュリティポリシーを理解し、安全管理に的確に対応できる。 資料の作成や活用において、個人情報保護に細心の留意ができる。 SNSなどの危険性を理解し、自分の情報管理ができる。 情報モラルの指導について積極的に推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ対策と学校セキュリティポリシー 情報理解と情報モラル指導 	<ul style="list-style-type: none"> パソコン室の使用規定などを整備し、安全管理を徹底することができる。 ネットモラル等に関する最新の技術や情報の収集をして、SNSなどの危険性の理解をして、的確な指導や対策ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全なネット環境の整備とネットモラル 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器の有効な活用ができる環境整備を推進すると共に、情報セキュリティの強化を推進することができる。 最新のICT技術の動向や実態を把握して、安全管理の重要性の啓発を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器と有効な活用と環境整備の推進 最新のICT技術と安全管理
	保護者・地域との連携 (資源の活用)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携による基本的な生活習慣の確立や、家庭学習を充実させることができる。 発信方法を工夫したり、情報を共有したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材を活用する 学級経営 基本的な生活習慣と家庭学習 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域、関係機関等、外部への情報発信を計画的に行うことができる。 幼児・小・中・高の各段階におけるキャリア発達の視点に立った保護者への的確な支援を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な情報発信 キャリア発達の視点に立つ保護者支援 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域の実情に合わせた活力ある学校づくりについて積極的に推進することができる。 特色ある開かれた学校づくりを進め、コミュニティスクールなど地域の状況に応じた連携を深めていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活力ある学校づくりの推進 コミュニティスクールと地域連携
	児童生徒理解	学級経営	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒個々の心身の特性や状況、生活環境等を多面的に捉え、個に応じた指導・支援を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営 変わるのは今～初めに返って～ 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携して、学年全体の児童生徒理解の上に立った指導を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> あっと驚く学級経営 ～家庭や地域とのつながり～ 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児から高校までの成長を見通したキャリア発達の視点に立った学級、学年づくりを行うことができる。
地域・家庭理解		<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域、関係機関等、外部への情報発信を計画的に行い、その効果を確認めたり、発信方法を工夫したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> クレームから学ぶ ～地域・家庭理解～ 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児・小・中・高の各段階におけるキャリア発達の視点に立った保護者支援を適切に行うことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> つながりを大切に！ 地域をつくる学級経営 	

		特別支援教育	・特別支援教育における基本理念や現状について最新の情報を収集し、理解しようと努めることができる。	・困っている子の困り感に迫る～アセスメントの方法と理解～	・地域の関係機関の役割を理解し、連携しながら、学校・家庭・地域での支援を効果的につなげることができる。	・特別支援コーディネーター研修① ～初めてのコーディネーター～ ・特別支援コーディネーター研修② ～初めてのコーディネーター～	・共生社会の実現に向けて、深い専門知識やコーディネート力をもとに、どのような場においても、質の高い教育的支援を提供できる。	新しい学校経営と特別支援教育～インクルーシブ教育～
		人権教育	いじめや不登校の現状について常に情報を収集・理解し、予防や解決に向けた適切な指導・支援ができる。					
教職の見識・人間性	自己研鑽・探究力	・自己の生き方を見つめ、自らの人間性を高めようと、今までのものの見方や考え方を見返すために「人、もの、こと」との出会いを積極的に求めることができる。 ・社会の変化と、それに伴う子どもたちの変化の理解に努め、一人ひとりの良さや違いに目を向けた児童生徒への対応を工夫することができる。						学び続ける教師をめざして
	使命感・責任感	・教職員の使命や任務を想起して、自身の現状と課題を把握し、自己啓発することができる。						自分を見つめて(もう一人の私を育てる)
		・自校の諸課題を受け止め、与えられた校務で課題解決に向けてリーダーシップを発揮することができる。 ・「いつの時代も求められる資質能力」と「今特に求められる資質能力」を理解し、教職に携わる者としての自覚をもち、研修への意欲を抱くことができる。						一人ひとりを位置づける 学校経営
	コミュニケーション力 連携力	・児童生徒の言動を注視し、言動の奥にある思いや背景、願いを感じ取りつつ、円滑な人間関係を結ぶとともに、一人ひとりの思いや願いを位置づけた学級づくりができる。 ・上司や同僚と積極的に関わり、互いの願いや目的を理解して、学年・教科会・行事・学校等の運営にあたることことができる。 ・保護者や地域の方々と積極的に関わり、開かれた学級づくり、学年づくり、学校づくりに努めることができる。						観る眼 聴く耳 同僚性の向上 コミュニケーション力の向上
	広い視野	・教育を取り巻く社会情勢の把握に努め、広い視野からものごとを見たり考えたりすることができる。 ・広い視野から長野市の教育目標や通学区内の風土や特色を理解し、郷土に誇りをもつことができる。						広い社会に目を向ける
法令遵守	・法令を遵守し、安全で安心な学校づくりに向けて、誠実かつ公正に職務を遂行することができる。 ・最新の法規について学び理解することができる。						教育法規と危機管理(スクール・コンプライアンス)	

Ⅲ 連携による研修についての考察

1. 指標の作成について

定期的に共同の研究会を開催すると同時に、研修講座についても参観したことで、より長野市教育センターの実態に合わせた内容を構築することができた。今後は、研修を実施していく中で、大学と教育センターとで内容の検証をすすめ、よりわかりやすい体系と受講システムの構築へと充実を図りたい。

また、いくつかの講座で大学教員が連携の範囲で講師をつとめたことから、講座の意図を理解し展開することができ、内容を充実させることができた。

2. ポートフォリオシステムの改修について

初任者研修に合わせて開発したポートフォリオシステムでは、教師力判断システムが5年経験者までの対応であったことから、新たに開発したミドルリーダーに対応した教師力診断システムを追加した。同時に、使い勝手の悪かった部分について修正を行い、初任から退職まで一貫して活用することにより、教員自らが自身の特性を認識し、計画的に研修に取り組めるようにした。

なお、ポートフォリオの内容は、紙ベースでの活用も可能で、他地域でも手軽に導入することができる。また、システムは公開するので、各教育委員会のネットワークに導入することで、イントラのWEB上で活用ことができ、校務の情報化と関連づけることが期待できる。

同時に、教育情報共有化システムは、インターネット上で公開しているので、他地域の教員との交流の場としても活用できるので、大いに利用していただきたい。

3. 授業研究用の研修教材の活用について

授業分析に関する教材を作成した。新しい分析手法を用いているわけではないが、現場での授業研究に、研究者からの視点を加えた授業分析のあり方を加味した形で、教材を開発することができた。他の教育センター等でも、同様の手法で教材を開発することは可能なので、資料を参考に開発していただいき、データの共有化が進むことを期待したい。

授業分析の視点を意識することを目的として開発したので、教員が日々の教育実践についてリフレクションする方策として活用していただきたい。

すべての教科について作成はできていないので、今後バリエーションを拡大していきたい。同時に、批評のコメントについても、改善を図っていきたい。

IV その他

[キーワード] 初任者研修 ポートフォリオ 教師力 授業力 OJT 型研修 教材開発
授業分析

[人数規模] D

[研修日数] C

【問い合わせ先】

国立大学法人信州大学 学務課

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

TEL/FAX 0263-37-2417 / 0263-36-3044

E-mail campus-edu@shinshu-u.ac.jp